令和3年度

一般選抜学生募集要項

新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，試験日程や試験方法等を変更する可能性があります。変更する場合は，本学ホームページで公表しますので，必ず確認してください。
名古屋大学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/ → 入学案内 → 学部入試の概要 → 学部入試に関するお知らせ）

受験者の体調管理のお願い

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，試験７日程度前から，受験者は自主的な検温をお願いします。
検温用の様式を１月上旬を目途に本学ホームページで公表しますので確認をお願いします。
名古屋大学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/ →入学案内 → 学部入試の概要 → 学部入試に関するお知らせ）
また，マスクの持参及び着用と，試験室の換気の際に体温調整ができる上着などの暖かい服装の持参についても，併せてお願いします。

試験当日の保護者の付き添い等について

新型コロナウイルス感染症対策として，必要な場合を除いて，保護者の付き添いや構内への入場を，原則禁止とします。受験生の安全確保のため，ご配慮をお願いします。

1　緊急時の諸連絡

　災害や感染症の流行等による試験日程及び選抜内容の変更，出願状況による試験会場の変更など，本募集要項の内容から変更する必要が生じた場合には，本学ホームページ及び携帯電話用ウェブサイト等により周知しますので，出願前や受験前は特に注意してください。

2　自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について

　名古屋大学では，自然災害等による被災者の経済的負担を軽減し，受験生の進学機会の確保を図るため，本入試の検定料の免除を実施する場合があります。

　詳細については，本学ホームページを確認してください。

3　出願状況の案内について

　本学の一般選抜の出願状況の案内は，本学ホームページ及び携帯電話用ウェブサイトにより次の日時から行います。

令和３年１月28日(木)　９時から

○　本学ホームページ
　URL　http://www.nagoya-u.ac.jp/
　　緊急時の諸連絡：入学案内→学部入試の概要→学部入試に関するお知らせ
　　検定料の特別措置：入学案内→学部募集要項／大学案内など
　　　→自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置について（学部入試）
　　出願状況：入学案内→学部出願状況など→出願状況

○　携帯電話用ウェブサイト
　URL　https://daigakujc.jp/nagoya-u/

携帯電話用コードでアクセスできます。▶

※一部ご覧いただけない機種があります。

入試についての問合せ先

名古屋大学入学試験事務室　TEL.（052）789－5765
FAX.（052）789－2188
E-mail.　nyuusi@adm.nagoya-u.ac.jp

●月曜日から金曜日　９時から17時（祝日・12月29日～１月３日を除く。）

●電話による問合せは，原則として**志願者本人**が行ってください。

●メールによる問合せは，件名を「一般選抜について」とし，メール本文に氏名・出願（予定）学部学科等・出願後の場合は受験番号を記入してください。

名古屋大学学術憲章

名古屋大学は，学問の府として，大学固有の役割とその歴史的，社会的使命を確認し，その学術活動の基本理念をここに定める。

名古屋大学は，自由闊達な学風の下，人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて，人々の幸福に貢献することを，その使命とする。とりわけ，人間性と科学の調和的発展を目指し，人文科学，社会科学，自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する。このために，以下の基本目標および基本方針に基づく諸施策を実施し，基幹的総合大学としての責務を持続的に果たす。

1. 研究と教育の基本目標

(1) 名古屋大学は，創造的な研究活動によって真理を探究し，世界屈指の知的成果を産み出す。

(2) 名古屋大学は，自発性を重視する教育実践によって，論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる。

2. 社会的貢献の基本目標

(1) 名古屋大学は，先端的な学術研究と，国内外で指導的役割を果たしうる人材の養成とを通じて，人類の福祉と文化の発展ならびに世界の産業に貢献する。

(2) 名古屋大学は，その立地する地域社会の特性を生かし，多面的な学術研究活動を通じて地域の発展に貢献する。

(3) 名古屋大学は，国際的な学術連携および留学生教育を進め，世界とりわけアジア諸国との交流に貢献する。

3. 研究教育体制の基本方針

(1) 名古屋大学は，人文と社会と自然の諸現象を俯瞰的立場から研究し，現代の諸課題に応え，人間性に立脚した新しい価値観や知識体系を創出するための研究体制を整備し，充実させる。

(2) 名古屋大学は，世界の知的伝統の中で培われた知的資産を正しく継承し発展させる教育体制を整備し，高度で革新的な教育活動を推進する。

(3) 名古屋大学は，活発な情報発信と人的交流，および国内外の諸機関との連携によって学術文化の国際的拠点を形成する。

4. 大学運営の基本方針

(1) 名古屋大学は，構成員の自律性と自発性に基づく探究を常に支援し，学問研究の自由を保障する。

(2) 名古屋大学は，構成員が，研究と教育に関わる理念と目標および運営原則の策定や実現に，それぞれの立場から参画することを求める。

(3) 名古屋大学は，構成員の研究活動，教育実践ならびに管理運営に関して，主体的に点検と評価を進めるとともに，他者からの批判的評価を積極的に求め，開かれた大学を目指す。

【出願手続から入学までの日程】

一　般　選　抜

※大学入学共通テスト特例追試験受験者の出願期間については，45頁以降を，一般選抜（前期日程）の追試験に関することは，46頁以降を参照願います。
※追試験については，令和3年度一般選抜（前期日程）に限り実施します。

目　　　　次

	頁
○名古屋大学の教育を支える３つの方針	1
○各学部の教育を支える３つの方針	2
一般選抜	
Ⅰ　募 集 人 員	13
Ⅱ　入学者選抜制度	14
Ⅲ　一 般 選 抜	14
1．試験実施日程等	14
2．出 願 資 格	14
3．大学入学共通テストの受験を要する教科・科目	16
4．出願に当たっての留意事項	19
5．選抜方法及び合格判定基準	20
6．個別学力検査期日・時間	23
7．個別学力検査試験場	24
8．個別学力検査実施教科・科目	25
9．個別学力検査実施教科・科目の出題方針について	27
10．大学入学共通テストと個別学力検査の配点	30
11．出 願 手 続	32
12．受験者心得	40
13．合格者発表	42
14．入 学 手 続	43
15．入学辞退手続	44
16．追 加 合 格	44
17．大学入学共通テスト特例追試験受験者の出願について	45
18．一般選抜（前期日程）追試験について	46
19．個人情報の取扱い	49
20．一般選抜における試験成績の開示	49
令和２年度 名古屋大学入学試験 志願者・受験者・合格者数及び志願倍率一覧	50
令和２年度 名古屋大学入学試験 合格最高・最低点及び合格者の平均点一覧	51
名古屋大学の概要	52
大学案内及び学部紹介冊子の請求方法	62
名古屋大学東山地区配置図	64
名古屋大学鶴舞・大幸地区配置図	65

名古屋大学の教育を支える３つの方針

●名古屋大学の教育の基本理念と育成する人間像

名古屋大学は「**学術憲章**」(2000年制定）で,「名古屋大学は，自由闊達な学風の下，人間と社会と自然に関する研究と教育を通じて，人々の幸福に貢献することを，その使命とする。とりわけ，人間性と科学の調和的発展を目指し，人文科学，社会科学，自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する」と，その使命を定めています。さらに「学術憲章」では「研究と教育の基本目標」として，「(1) 名古屋大学は，創造的な研究活動によって真理を探究し，世界屈指の知的成果を産み出す。(2) 名古屋大学は，自発性を重視する教育実践によって，論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」という基本理念を掲げています。

この「学術憲章」に示される基本理念の下で，名古屋大学は日本における基幹総合大学の一つとして，創造的な教育・研究活動を通じ，豊かな文化の構築と科学・技術の発展に寄与してきました。21世紀に入り６名のノーベル賞受賞者を輩出するなど世界屈指の研究成果を産み出すとともに，既存の権威にとらわれることのない自由闊達な学風の下，多数の進取の気性に富んだリーダー人材を育成してきています。名古屋大学はこれらの人材や知的成果を広く社会に提供するための開かれた大学づくりに努めています。冒頭で述べたように,「**勇気ある知識人**」を育成する人間像として示しています。

「勇気ある知識人」とは，責任感をもって社会に貢献しようとする高い志とグローバルな視野をそなえ，幅広い教養と高い専門性を身につけ，人々の幸福や持続可能な社会の発展を妨げる諸問題の解決に積極的に寄与できる人材を言います。このような真の勇気と知性をもち，未来を切り拓いていける人が，名古屋大学が育成しようとしている人間像なのです。

この「勇気ある知識人」を支える力となるのが，十分な知識・技能，主体的な創造性，立ち向かう探究心です。こうした優れた資質・能力を持った人を，名古屋大学は，多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって育成しています。

●３つの方針に基づく大学教育の質の向上

名古屋大学では，このような教育を適切に実施するため，①卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー)，②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー)，③入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）という３つの方針を学士課程及び大学院課程において定め，広く学内外に向けて公表しています。

これらの方針は，名古屋大学の教職員にとっては，大学がめざす教育を実現するための指針であり，つねに立ち戻って教育のあり方を点検するための指標でもあります。名古屋大学への入学を志望する者にとっては，入学後に期待できる教育のあり方や，入学までに身につけておくべき素養について知るための情報源となります。また，名古屋大学に在学する学生にとっては，本学で提供されている教育が何をめざしているのかを普段から意識するための手がかりとなります。さらに卒業生や修了生の活躍の場となる社会にとっては，名古屋大学がどのような資質・能力をそなえた人材を育てているのかを理解する拠りどころとなります。

これら３つの方針は，相互に密接に関連してこそ，その真価を発揮します。名古屋大学では，教育の基本理念と育成をめざす人間像を起点として，３つの方針を一体的に定めています。そして，このように一体的に定められた３つの方針に照らして，本学の教育のあり方を自己点検・評価し，教育の質を向上させていく取組を積極的に進めています。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

［学士課程］

名古屋大学は，各学部の教育目標と基準に沿った資質･能力の卒業資格を満たした者に，卒業を認定し，学士の学位を授けます。名古屋大学の学位は，真の勇気と知性をもち，未来を切り拓いていく「勇気ある知識人」として，それぞれの学術分野で，十分な知識・技能，主体的な創造性，立ち向かう探究心が培われたことを証します。

名古屋大学では，学部・学科ごとに，学術分野の特徴に基づき，社会からの期待に応えるために育成する人間像を教育目標として設定しており，それに基づく基準を定めています。学士の学位は，各学部・学科のカリキュラムの履修を通して，その基準に対応した資質・能力を身につけた学生に対して授与されます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

［学士課程］

名古屋大学は，高度で幅広い教養を育むための教養教育と，飽くことなき探究心の涵養と新たな知の主体的創造につながる専門教育との二本柱からなる体系的な教育課程により，学生を育てます。多様な授業形態の組み合わせによる教育課程の展開と自発的な学修の促進を図り，学術分野の特徴を活かした，教育実践及び学修指導を適切に実施します。

名古屋大学では，学部・学科ごとに教育目標として設定した，育成する人間像に対応する資質・能力を培うためにふさわしい教育課程を編成し，実施しています。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

［学士課程］

名古屋大学は，未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。各学部・学科の学術分野の特徴に基づき，基礎的な学力とそれを活用する能力，さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。

名古屋大学では「学術憲章」に掲げているように,「勇気ある知識人」の育成を目指しています。「勇気ある知識人」として必要な資質・能力は，大学教育での学びだけで培われるわけではありません。中等教育で身に付けた土台の上に立ってこそ，勇気ある知識人への成長が可能になります。そのため，名古屋大学では，基礎的な学力とそれを活用する能力，さらにそれを発展させようとする意欲や態度を備える人を国内外に求めています。

各学部・学科の特徴に基づき，多様な評価方法を適宜組み合わせた入試を実施し，ひとりひとりの学生を選抜します。

文学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

文学部は，以下に示す資質･能力等を備え，卒業資格を満たした者に，卒業を認定し，学位を授与します。

文学部が授与する学位は，言語・文化・歴史に対する深い探究心と社会・環境への強い関心を持ち，高い異文化理解力を備えた人材であり，また，人文学的教養を通して，国際社会・地域社会の諸問題の解決に寄与しうる人材であること，そして，「高い異文化理解能力と言語運用能力」，「文献や資料を収集･読解･分析する能力」，「専門分野における基本的な研究方法を理解し，応用する力」，「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション力」，「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を備えていることを証します。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

文学部の卒業要件は，原則として４年以上在学し，所定の授業科目のうち，全学教育科目を48単位以上，専門科目を84単位以上，合計132単位以上を履修し，かつ卒業論文の試験に合格することです。なお，専門科目の単位数には卒業論文10単位が含まれます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では，「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質や能力を身につけた人材を育成するため，以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

① 全学教育科目の中の言語文化科目によって，「高い異文化理解能力と言語運用能力」の基礎を身につけます。

② 全学教育科目の中の基礎セミナーによって，「文献や資料を収集・読解・分析する能力」および「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」の基礎を身につけます。

③ 全学教育科目の中の文系基礎科目や文系教養科目で,「専門分野における基本的な研究方法を理解し，応用する力」の概略を学びます。

④ 専門科目の履修によって,「専門分野における基本的な研究方法を理解し，応用する力」を修得し,「文献や資料を収集・読解・分析する能力」や「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション能力」,「高い異文化理解能力と言語運用能力」を高めます。

⑤ これらの能力について，小論文や筆記試験，口頭発表，討議への貢献度など，各授業において定める方法によって単位認定を行います。

⑥ 卒業論文を書き上げることによって，これらの能力が身についたことを確認します。

⑦ カリキュラム全体の履修を通して，「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を身につけます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

文学部では，養成する人材像とディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーを踏まえ，「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力を備え，人間の営為としての言語・文化・歴史に深い関心を持ち,社会･環境など現代社会が抱える諸問題を考えることに意欲がある人」を入学者として選抜します。

（２）選抜の基本方針

〇一般選抜

アドミッション・ポリシーに適合した人材を選抜するため，調査書，大学入学共通テストの成績および個別学力検査の成績を総合的に判断し選抜を行います。「人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力」は大学入学共通テスト，個別学力検査で判定します。個別学力検査においては，論理的な思考力も人文学分野の研究に取り組むのに必要な基礎的な学力の一部であることから，国語，地歴，外国語に加えて，数学を課しています。「人間の営為としての言語・文化・歴史に対する深い関心」や「社会･環境など現代社会が抱える諸問題を考える意欲」については，調査書を含めて総合的に判定します。

教育学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

本学部は，人間の成長発達と教育をめぐるさまざまな問題を研究の対象とする教育発達科学の知見と方法を総合的に学ぶことによって，論理的･批判的思考力と判断力，協働的コミュニケーション能力を有し，省察と探究の習慣を自ら育むことができ，人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ，勇気と熱意をもって向き合い，問題解決に協働的に取り組むことのできる人材，さらには，社会的正義の感覚を有し人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成を目的としています。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

学士学位授与のためには，全学の「名古屋大学の教育を支える３つの方針」に則って開講される「全学教育科目」（合計48単位以上）ならびに，上記の目的のために本学部で開講される「教育学部専門科目」（専門科目，コース科目，卒業論文，合計84単位以上）を履修することが要件となります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

（１）教育課程の編成方針

本学部の教育課程は，全学共通の教育目的，および本学部のディプロマ・ポリシーに掲げられた目標を達成するために，教養教育の基盤の上に，有機的で構造的に編成された専門教育，すなわち，１学科（人間発達科学科）５コース（教育学系の生涯教育開発コース，学校教育情報コース，国際社会文化コース，心理学系の心理社会行動コース，発達教育臨床コース）から構成されています。

具体的には，１年次および２年次の科目履修において，教養教育と専門科目は有機的に関連づけられ，「全学教育科目」によって育まれた「高度で幅広い教養」を基盤に，「専門基礎科目」の履修により，専門領域への導入（専門基礎的な知識と技能の獲得）が図られます。３年次と４年次においては，発展的，応用的な専門科目である「コース科目」を履修し，この間の探究の成果として，指導教員の研究指導の下で「卒業論文」を作成します。

（２）教育課程の実施方針

「全学教育科目」の履修により，人間と社会の諸問題に対する関心を高め，また専門分野の基礎的技法となるコミュニケーション能力や論理的・批判的思考力と判断力を養います。

「教育学部専門科目」では，まず「専門基礎科目」の履修により，人間発達科学の基盤的研究について幅広く学ぶことにより,さまざまな視点と知見,基礎的な研究技法を習得します。次に「コース科目」は，本学部が比較的小規模である長所を活かし，いずれの開講形態（講義，演習，実験演習，各種の実習，各種の調査研究）も少人数で実施し，これらの履修により，省察と探究の精神，問題解決能力，協働性とリサーチ・マインドの育成が目指されます。教育課程の学修成果の仕上げとなる「卒業論文」では，指導教員の研究指導の下で，独自の研究テーマを設定し，特定の研究方法による省察と探究が求められます。卒業論文の作成を通して，人間発達科学の知見とそれを基盤とした人類と社会の発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成が目指されます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

本学部は，人間の成長発達と教育をめぐるさまざまな問題を研究の対象とする教育発達科学の知見と方法を総合的に学ぶことによって，論理的･批判的思考力と判断力，協働的コミュニケーション能力を有し，省察と探究の習慣を自ら育むことができ，人間と社会の諸問題に絶えず関心をよせ，勇気と熱意をもって向き合い，問題解決に協働的に取り組むことのできる人材，さらには，社会的正義の感覚を有し人類と社会の調和的発展とウェルビーイングに貢献できる人材の育成を目的としています。

上記の目的を理解したうえで本学部への進学を志望する者には,次のような能力や資質が求められます。

１）人間発達科学を学ぶための基礎的学力
２）人間の成長発達と教育をめぐる多様な事象と問題に対する関心と問題意識
３）人間と社会の諸問題に対して深い関心をもち，教育と発達および社会的正義の視点から探究し，問題解決を志向し，人類と社会の調和的発展に貢献しようという意欲と熱意

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

人間発達科学を学ぶための基礎的学力を評価するため，大学入学共通テストと個別学力検査（国語，数学，外国語）により選抜を実施します。

法学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

法学部は，社会のルールの学としての法律学･政治学の総合的な知識の修得を通じて，大局的見地に立って的確な価値判断・意思決定を行うことができ，現代社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与し，未来を切り拓いていくことができる人材を育成します。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

法学部では，全学教育科目を「専門系」（基礎セミナー，文系基礎科目）と「非専門系」（その他）とに分類し，全学教育「専門系」科目12～14単位，同「非専門系」科目36単位，法学部「専門科目」82～84単位（関連専門科目として，他学部の専門科目を20単位まで含めることができます），合わせて132単位の修得を通じて，教育目標に掲げる人材であると証される者に，卒業を認定し，学士（法学）の学位を授けます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法学部は，グローバル化社会に対応するための法律学･政治学の総合的な知識を修得し，大局的見地に立ってものごとを総合的に判断する能力を養うための教育課程により，学生を育てます。法律学・政治学の総合的な知識を修得するため，専門に関わる基礎的な科目として「現代日本の司法」「法と政治の思想」「近代日本の政治と外交」「現代日本の外交・国際関係」「現代日本の政治と行政」を１年次に配置するとともに，いわゆる六法（「憲法」「民法」「刑法」「商法」「民事訴訟法」「刑事訴訟法」）以外にも，２年次からは「経済法」「日本法制史」「西洋法制史」「法学史」「政治学原論」「行政学」「西洋政治思想史」等，３年次からは「行政法」「租税法」「環境法」「労働法」「知的財産法」「社会保障法」「法哲学」「法社会学」「政治過程論」「東洋政治思想史」「日本政治史」「地方自治論」「ジェンダーと政治」等の多様な専門科目を，段階的・体系的に配置しています。グローバル化社会に対応するための専門科目としては，「国際法」「国際私法」「比較国制論」「ロシア法」「中国法」「国際政治学」「国際政治史」等を配置しています。

大局的見地に立ってものごとを総合的に判断する能力を養うため，法律学・政治学にとっての専門系科目の学習を豊かに支える科目として，「地球科学入門」等の全学教育「非専門系」科目を配置しています。同じ目的から，それぞれの学生の自主的な科目選択を尊重しつつも，「木を見て森を見ない」ことにならないように，全学教育科目の文系基礎科目のうち，「日本国憲法」「法学」「政治学」は，履修しても法学部の卒業単位にはならないこととしています。

また，複雑化し価値の多元化が進み，さまざまな問題が生じている現代社会において，そのような問題の解決に向けて積極的に寄与する資質・能力を培うための教育実践および学修指導を適切に実施します。そのプロセスにおいては，アジア諸国を中心とする国際的な連携や，少人数教育を重視しています。そのような観点から，全学教育科目の「基礎セミナー」，専門科目の「演習」「法政実習（インターンシップ）」「卒業論文」等を配置しています。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

法学部は，社会のルールの学としての法律学・政治学を学ぶことを通じて，大局的見地に立って的確な価値判断・意思決定を行い，グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与し，未来を切り拓いていくことを目指し，かつ，そのために必要となる資質や能力を備えた人を，国内外に求めます。

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

幅広い基礎学力を大学入学共通テスト（５または６教科８科目，900点）により評価するとともに，これまでに身につけた基礎学力を活用する能力を個別学力検査（３科目，600点）により評価します。個別学力検査では，とりわけ法律学を学ぶ上で重要となる論理的思考を発展させるために必要な学力を数学（200点）により，また，グローバル化社会のさまざまな問題の解決に向けて積極的に寄与するために必要な意欲や能力を，外国語（200点）および高等学校の地理歴史，公民の学習を前提とする小論文（200点）により評価します。

経済学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

経済学･経営学の知識やリーダーとしての資質を身につけ,現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し,解決できる人を育てます。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

卒業論文を含み，全学基礎科目，文系基礎科目，理系基礎科目，文系教養科目，理系教養科目，全学教養科目，専門基礎科目，専門科目，関連専門科目について所定の単位（全学教育科目48単位，専門基礎科目28単位，専門科目・関連専門科目56単位以上）を修得した者に対して，（１）の教育目標が求める資質や能力が育成されたものと総合的に判断し，学士の学位を授けます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部は,「経済学・経営学の知識やリーダーとしての資質を身につけ，現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し，解決できる人の育成」を学部教育の目標としています。全学共通の教育目的に照らして設定した，経済学部の教育目標を達成するために，

(1) 全学教育科目で幅広い教養を修得する，

(2) 専門基礎科目で各専門分野の基礎知識を確実に修得する，

(3) 専門科目（卒論研究を含む）と関連専門科目で基礎知識を応用する能力を育成する，

という３つの基本方針を打ち立てて，経済学・経営学において必要とされる幅広い教養を学ばせ，それを基礎として学術の理論および応用を習得させるよう，カリキュラム設定をしています。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

経済学・経営学の専門的な知識を学ぶための基礎的な学力を備え，ダイナミックに変化する現代の経済社会への鋭い関心を持って，経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究することができる学生の入学を求めます。

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

経済学・経営学の専門的な知識を学び，経済活動に関わる諸問題を理論的・実証的に探究するための基礎的な学力を備えた者を，大学入学共通テストと国語・数学・外国語の３教科の個別学力検査により選抜します。

情報学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

情報学部は，以下の基準にそった学力及び資質・能力等の卒業資格を満たした者に，卒業を認定し，学位を授けます。

情報学部の学位は，細分化した学問諸分野を統合していくハブの役割を果たすと期待される「情報学」の教育と研究を通して，次のような資質・能力等が培われたことを証します。

１）情報学の知見を駆使して，取り組むべき課題を発見し，それを解決できる
２）情報学の知見を駆使した，組織マネジメントや制度設計について理解している
３）情報社会の基盤となる仕組みやシステムの構想・設計について理解している

（2）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

情報学部においては，全学教育科目は，全学基礎科目，文系基礎科目，文系教養科目，理系基礎科目，理系教養科目，全学教養科目から各学科が定める履修要件により44単位以上修得します。専門系科目は専門基礎科目，専門科目，関連専門科目，卒業研究からなります。専門基礎科目から30～34単位，専門科目から38～50単位，関連専門科目から２～10単位の合計84単位以上を修得します。専門科目には，卒業研究６単位が含まれます。卒業要件は，原則として４年以上在学し，合計128単位以上を修得し，かつ卒業研究の審査に合格することです。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

情報学部では，「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」で掲げた資質を共通して涵養するために，想定される社会での活躍場面に応じた，より専門的な知識・技能・態度を獲得することを可能とする専門教育の課程を次の科目により編成します。

１）全学教育科目
「基礎セミナー，言語文化，健康・スポーツ科学，文系基礎科目，文系教養科目，理系基礎科目，理系教養科目，全学教養科目」

２）専門基礎科目
「スタートアップ科目群」
「情報科学技術の基礎となる科目群」
「自然や社会をシステムとして理解する基礎となる科目群」
「論理的に課題を発見・解決するための基礎となる科目群」

３）学部共通の専門科目「社会とのインタラクションのための科目群」
「情報倫理と法」，「アカデミック・イングリッシュ」，「アカデミック・ライティング」，「マネジメント」等

４）学科ごとの専門科目
５）関連専門科目
６）卒業研究

情報学部では，共通的な資質と高度な専門性を兼ね備えた融合的人材を育成するため，全学教育科目，学部に共通の科目（専門基礎科目および学部共通の専門科目），学科ごとの専門科目，関連専門科目，卒業研究で教育課程を編成します。一定の専門性を身につけた上で，さらに専門性を超えた知識・技能・態度を涵養するため，学部共通科目を，１～２年生だけでなく３～４年生に対しても配置します。

これら適切に配置された科目を修得することによって卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げた３つの資質・能力等を兼ね備えた人材を育成します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

情報学部は，情報学の各分野の研究者になりうる人材のみならず，情報学を駆使して，新しい価値の創出，課題の発見と解決，情報社会の基盤的仕組みの構想・設計等ができる人材，あるいは，企業や政府機関・国際機関等の組織を情報の観点からマネジメントできる人材，情報学に通じた科学諸分野の研究者になりうる人材を養成することを目標としています。そのため，このような人材育成の基盤となる次のような資質を持った多様な学生を，幅広く対象として入学者選抜を実施します。

ア　幅広い情報学の知識とスキルを身につけるために必要な，十分な基礎的学力を有していること。（学部共通）

イ　情報の観点から世界を理解し，情報技術を駆使して諸科学を革新しようとする意欲を有すること。（主に自然情報学科）

ウ　社会の抱える問題と未来の社会像について問題意識をもち，情報学を用いて問題を解決し価値を創造しようとする意欲を有すること。（主に人間・社会情報学科）

エ　社会と調和し，社会に価値をもたらす情報技術を創造しようとする意欲を有すること。（主にコンピュータ科学科）

自然情報学科，人間・社会情報学科，コンピュータ科学科への多様な資質と興味を持った学生を獲得するために学科ごとに選抜します。

（2）選抜の基本方針

○一般選抜

情報学部の一般選抜による募集人員は113名です。入学者選抜については，大学入学共通テスト及び本学が実施する個別学力検査等により，情報学部が文理融合を特色とする学部であることから，大学入学共通テストにおいては，幅広い知識と能力を担保するために，国語，地歴・公民，数学，理科，外国語から５教科または６教科について７科目または８科目を課しています。また，個別学力検査等では，全学科に共通して外国語を課すとともに，各学科においては人材養成をする上で基礎となる理解力や素養を判断できる科目を課しています。

自然情報学科

特定の分野のサイエンスに深い関心を抱き，情報学を用いてそれをさらに一歩進めたいと願う学生を求めており，このような，ある意味で「尖った」サイエンス志向の学生を受け入れるため，個別学力検査において理科４科目から１科目選択とします。入学後の自然情報学科のカリキュラムを通じて広く学ばせることにより，こうした学生の関心を他分野そして社会へとより広げていくことを目指しています。

人間・社会情報学科

社会とそれを構成する人間に関心をもつ学生を求めています。人間・社会情報学科は社会情報系と心理・認知科学系からなりたっています。情報科学技術を人文社会学や心理・認知科学に適用することから，情報学に理解のある文系学生と人文社会学に興味を持つ理系学生の双方を受け入れるため，個別学力検査において地理歴史と数学の選択としています。

コンピュータ科学科

情報技術の創造による社会貢献というテクノロジー志向の学生を求め，技術創造力の向上を目指す教育を行うために，理科全般への関心をもつ学生を対象とすることが有効であると考えています。したがって，個別学力検査において，物理を含む理科４科目のうち２科目を指定します。物理を必須とするのは，物理が高校理科の科目のうちでは，コンピュータ科学科の教育内容に最も親近性が高いこと等を考慮しています。

理学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

自然の理を解き明かそうとする探究心と独創的で柔軟な思考をもち，基礎科学の研究をとおして，また科学的素養を活かして，社会の様々な分野で大きく貢献できる人を育てます。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

学位を取得するためには，入学後，本学部に４年以上在学し，履修要件として定めた所定の単位（数理学科138単位，物理学科132.5単位，化学科131.5単位，生命理学科132.5単位，地球惑星科学科133単位）以上を修得することが必要です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部は，自然への探究心を涵養し独創的で柔軟な思考力を育成するために，年次進行に沿って下記の方針を定めています。

(1) 初年次教育は，基礎を学びながら自分の進みたい学科を選ぶ期間を設定しています。
(2) 数学や理科の基礎科目はもちろん，物事に対する考え方や議論の方法そのものを学ぶ専門リテラシー，人文社会系の教養科目，外国語など，高度知識人に相応しい教養を身につけます。
(3) １年終了時に，希望や成績などによって各学科への配属が決定される学科分属制度を採用しています。この制度は，理学部の大きな特長で，総合的な視座から研究や社会をリードできる人材を育成しようとする考えに基づいています。
(4) ２年次以降は，各学科に分かれて，基礎から専門的な講義までを体系的に受講します。演習を取り入れ，実験系では多くの時間を実習にあてて重点的な指導を行っています。いずれの学科でも最新の研究成果を取り入れた教育を行っています。加えて，他学科の講義も履修でき，自然科学の基礎知識を一層広げることができます。
(5) ４年次には，さらに専門的な講義を実施するとともに，各研究室に配属されて，これまで３年間の蓄積を実際の研究現場で活用し，自主的な学習と研究による卒業研究に取り組みます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

自然界を貫く真理の探究に挑むため，総合的な基礎学力に加えて理学の諸分野における幅広い教養と深い知識を持ち，チャレンジ精神と知的好奇心に満ちあふれた，瑞々しい創造力をもつ人を求めています。

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

一般選抜では，大学入学共通テストにより総合的な基礎学力を測り，個別学力検査では「数学」「理科」「外国語」及び「国語」を課すことにより，理学の諸分野における教養の幅広さと知識の深さに加えて，読解力，表現力，論理的思考力を測ります。

医学部（医学科）の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

科学的論理性と倫理性・人間性に富み，豊かな想像力・独創性と使命感を持って医学研究および医療を推進する人を育てます。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目をはじめ，基礎医学，社会医学及び臨床医学からなる専門科目，臨床実習について所定の単位（全学教育科目51単位，基礎医学，社会医学及び臨床医学からなる専門科目99.5単位，臨床実習58単位の計208.5単位）以上を修得した者に対して，このような資質や能力が育成されたものと総合的に判断し，学士の学位を授けます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学部は，本学の教育目的に基づき，「科学的論理性と倫理性･人間性に富み，豊かな創造力･独創性と使命感をもって医学研究及び医療を推進する人の育成」を学部教育の基本方針としています。全学共通の教育目的に照らして設定した，医学部の教育目標を達成するために，医学科において下記の施策を実施しています。

医学科

(1) 全学教育として開講されている，基礎医学を学ぶための科目をとおして，医学教育の根幹を学ぶ機会を設けています。
(2) PBLチュートリアルなどの問題立脚型の学習方法を導入し，自ら課題を発見し解決する能力を養成します。
(3) 問題解決のための科学的論理性やコミュニケーション能力を適正に評価するシステムを確立します。
(4) 世界最高の教育水準にある海外大学医学部との単位互換プログラムを実施し，その充実を図ります。
(5) 教員が世界の医学教育改革の潮流に対応できる教育手法を習得するためのファカルティ・デベロップメント（FD）活動を推進します。
(6) 社会の要請に応え，最先端研究を推進する研究医と地域医療に貢献する臨床医の養成に努めます。
(7) 基礎医学・社会医学・臨床医学の講義・実習をとおして，科学的論理性を養います。
(8) 基礎セミナー・基礎医学セミナーをとおして，豊かな想像力・独創性を養います。
(9) 医学入門・社会医学実習・臨床実習をとおして，倫理性・人間性を養います。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

豊かな人間性，高い倫理性，科学的論理性を備え，創造力に富む医師・医学研究者へと成長するために必要な能力と資質を備えた学生を求めています。そのために，幅広い教養及び十分な基礎学力のみならず，知的好奇心や科学的探究心をもって新たな分野を開拓するような意欲を持ち，物事を多面的に捉え深い洞察力を持って発展させることができる思考力を有し，人間に対する共感や高い協調性といった医学に携わる者としての適性を兼ねそなえた入学者を選抜します。

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

大学入学共通テストにより基礎学力の評価を行う。さらに前期日程においては，個別学力検査により幅広い教養と知識について，書類調査により将来の医師，医学研究者としての適性について評価します。一方，後期日程においては面接試験にて県内の地域医療を担う意欲をもった人物を重視した選抜を行います。

医学部（保健学科）の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

保健学科では，知識・技能，主体的な創造性，立ち向かう探究心を有する人を育てます。また，科学的論理性と倫理性・人間性に富み，豊かな想像力・独創性と使命感を持って保健医療を推進する人を育成します。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

教育目標と基準に沿った資質・能力を満たした者に卒業を認め，学士の学位を授けます。卒業には，全学教育科目を33単位以上（全専攻共通）に加え全専攻とも卒業研究（４単位）を含み，看護学専攻91単位，放射線技術科学専攻94単位，検査技術科学専攻91単位，理学療法学専攻91単位，作業療法学専攻93単位以上の専門系科目を修得する必要があります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健学科は「科学的論理性と倫理性・人間性に富み，豊かな想像力・独創性と使命感をもって保健医療を推進する人の育成」を学部教育の基本方針としています。将来の保健医療を担うリーダーとなりうる人材の育成をめざし，看護学・放射線技術科学・検査技術科学・理学療法学・作業療法学の５専攻を設けています。医学部の教育目標を達成するために，以下のような教育課程を用意しています。（１）１年次には，主として全学教育科目と専門（基礎）科目の一部を学びます。全学教育科目では，幅広い学問体系の知識を獲得し，総合的な分析・把握力・論理性に裏付けされた基礎的な主体性や探究心を，また豊かな人間性を育みます。また，専門基礎科目として，解剖学・生理学や生命倫理学などの５専攻共通基礎科目を通して専門技術に不可欠な保健医療の幅広い知識を習得し，科学的論理性や主体的な創造性の基礎を育成します。（２）２年次以降は，各専門の段階的な講義・演習・実習の教育カリキュラムを設け，各領域の専門科目で高度な専門知識や技能の取得に加え，幅広い視野と高い倫理性を身につけます。（３）３年次および４年次には，医療福祉機関や地域において臨地・臨床実習を行い，これまで習得した知識の実践的活用方法および保健医療の実際を学びます。また，使命感をもつ保健医療人との関わりから，保健医療への使命感や立ち向かう探究心を育成します。あわせて，各研究室に配属のうえで卒業研究に取り組み，科学的論理性や独創性，豊かな想像力による問題発見・解決能力を身につけます。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

保健学科では，未来の「勇気ある知識人」を目指す人を国内外に求めます。保健学科の学術分野の特徴に基づき，基礎的な学力とそれを活用する能力，さらにそれを発展させようとする意欲や態度を適正に評価して選抜する入試を実施します。入学者が次のような資質を有することを期待します。

１．生命への畏敬の念，弱者への思いやり
２．科学的探究心と積極的意欲並びに行動力
３．多様な価値観を受け入れる寛容さ
４．ボランティア精神とフロンティア精神
５．穏やかな情緒と協調性

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

前期日程により選抜します。大学入学共通テストでは，国語（配点200点）・地理歴史もしくは公民（100点）・数学（200点）・理科（200点）・外国語（200点）により，基礎的な学力を評価します。個別学力検査では，国語（配点150点）・数学（500点）・理科（500点）・外国語（500点）により，理解力・論理的思考力などを通して問題解決の思考力を有することを評価し，これらを総合的に判断します。

工学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（1）育成する人材像（教育目標）

工学を拓くための学力および資質・能力を備え，科学に対する強い興味をもとに社会に貢献する人を育てます。

（2）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

各学科の教育課程に沿って，十分な教養と専門知識・技術を修得し，卒業判定に合格することが必要です。卒業要件単位数は，全学教育科目が45.5～49.5単位，専門系科目が卒業研究を含め84～89単位で，合計133～137単位です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

工学部は，「工学を拓くための学力および資質･能力を備え，科学に対する強い興味をもとに社会に貢献する人の育成」を学部の教育目標としています。この目標を達成するため，学部教育の基本方針を次のように定めています。

(1) 科学的な基礎知識と工学基礎を充実させます。
(2) 人文・社会科学等の関連する学問分野についての幅広い視野を確立させます。
(3) 基礎知識を柔軟に適用する豊かな応用力を養成します。
(4) 将来の創造性につながる基礎学力と技術・研究のあり方に対する基本的な素養を養成します。
(5) 十分な基礎知識を教授した後，多様な専門分野の選択肢を提供し，必要な専門性を養います（Late Specialization）。

これらの教育方針にそって，全学教育科目の基礎のもと，学科ごとに教育プログラムを編成しています。専門系科目を専門基礎科目，専門科目，関連専門科目に区分し，それぞれの科目区分の中に，講義，演習，実習，実験などの多様な形態の授業を配置し，学年進行にそって，基礎力，応用力，創造力・総合力が段階的に涵養されるよう配慮しています。

学部教育カリキュラムは卒業後，大学院に進学しさらに高度な学問分野の修得と研究を行う学生のために必要な基本的な内容を網羅するとともに，大学院の教育カリキュラムとの密接な関係をもつように配慮しています（３＋３＋３型教育システム）。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（1）入学者受入れの方針

自然科学に対する強い興味と，人間や社会に対する幅広い関心をもち，工学を学ぶための基礎学力と素養をも持った意欲のある人を求めています。

（2）選抜の基本方針

○一般選抜

入学者受入れの方針にしたがって，特に，工学を学ぶための基礎学力と素養をも持った意欲のある人材を選抜します。具体的には，大学入学共通テスト，個別学力検査，調査書により，各学科において基礎的な学力を評価し，選抜します。

農学部の教育を支える３つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

（１）育成する人材像（教育目標）

農学領域における科学的知識と基礎的技術を身につけ，生物に対する深い理解と論理的思考力に裏付けられた総合的判断力をもって将来を切り拓いていく教養豊かな知識人を育てます。

（２）卒業，修了判定時に課している基準（必要要件）

全学教育科目，学部専門基礎科目，卒業論文研究を含む学部専門科目について所定の単位を修得した者に対して，農学の学術分野における資質や能力が育成されたものと総合的に判断し，学士の学位を授けます。卒業に必要な単位数は，全学教育科目49単位，専門基礎科目42単位，専門科目45単位の計136単位です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

農学部は，“食・環境・健康”に関して多様な視点から問題を発見・解決できる力を養うとともに，大学院教育との連携や社会からの要請に応えるために，以下の教育プログラムを実施しています。

⑴ 基礎学力の養成：１・２年次では，あらゆる学問分野の基礎となる全学教育科目を履修して，基礎学力を養成します。

⑵ 農学領域における基礎知識と関連する技術の習得：１・２年次では，３学科に共通して必要な生物系・化学系・数物系の基礎科目，“食・環境・健康”に関わる課題認識のための基礎科目「生命農学序説」，情報教育科目「情報リテラシー入門」などを履修して，基礎知識を習得します。

⑶ 自発的，継続的に学ぶ能力の習得：科学・技術・社会に対する視野を広げるとともに，今後の学修の方向性や取り組み方を考えます（「生命農学序説」「生命と技術の倫理」など）。また，科学英語の読解能力，プレゼンテーション能力，課題解決能力の向上を目指します（「農学セミナー」など）。

⑷ 課題を見出し，学んだ知識や技術を応用して解決する能力の習得：３・４年次では，様々な学問領域につながる専門科目の講義と実験実習，また専門横断的科目（「フードシステム論」など）や各種資格の取得に必要な科目を履修し，生物のもつ機能の多面的な利用と技術開発に関する方法論や専門知識を学びます。

⑸ グローバルな視野をもって行動し，社会に貢献できる人材の養成：各学科の実習，研修，講義を通じて農学領域における国内外の諸問題を発見・解析・探求する能力を養います（「海外実地研修」など）。

⑹ 卒業論文研究：４年次を各専門分野に対応した専門教育の期間と位置付け，学生が研究室に所属して，学生が主体となって卒業研究に取り組み，最先端研究の一端を担うことで，高度な専門知識と課題解決方法を習得します。

入学者受入れ・選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

（１）入学者受入れの方針

「食・環境・健康」に関わる学問を探究するために必要な基礎的学力を有し，それぞれの専門分野で指導者や専門家として知識と技術を社会に役立てようという志をもつ人材を求めています。

（２）選抜の基本方針

○一般選抜

一般選抜においては，理科にやや重点を置き，大学入学共通テスト（５教科７科目）とともに，数学・理科・外国語の個別学力検査を課します。基礎知識・理解力・論理的思考力・応用力などを総合的に評価し，選抜します。

Ⅰ　募集人員

学部・学科等		一般選抜		その他の選抜		合計
				学校推薦型選抜		
		前期日程	後期日程	大学入学共通テストを課す入試	大学入学共通テストを課さない入試	
文学部		110			15	125
教育学部		55		10		65
法学部		105		45		150
経済学部		165		40		205
情報学部	自然情報学科	30		8		38
	人間・社会情報学科	30		8		38
	コンピュータ科学科	53		6		59
	小計	113		22		135
理学部		220		50		270
医学部	医学科	90	5	12		107
	保健学科 看護学専攻	45		35		80
	保健学科 放射線技術科学専攻	30		10		40
	保健学科 検査技術科学専攻	25		15		40
	保健学科 理学療法学専攻	13		7		20
	保健学科 作業療法学専攻	13		7		20
	保健学科 計	126		74		200
	小計	216	5	86		307
工学部	化学生命工学科	90		9		99
	物理工学科	75		8		83
	マテリアル工学科	99		11		110
	電気電子情報工学科	107		11		118
	機械・航空宇宙工学科	135		15		150
	エネルギー理工学科	36		4		40
	環境土木・建築学科	72		8		80
	小計	614		66		680
農学部	生物環境科学科	27		8		35
	資源生物科学科	43		12		55
	応用生命科学科	66		14		80
	小計	136		34		170
合計		1,734	5	353	15	2,107

【注】⑴　上記募集人員のうち，大学入学共通テストを課さない学校推薦型選抜については，出願の受付が終了しています。

⑵　「学校推薦型選抜」において，合格者又は入学手続者が募集人員に達しない場合には，その欠員分は，「一般選抜」の募集人員に加えます。

⑶　募集人員の合計には，「私費外国人留学生入試」及び「国際プログラム群学部学生入試」の募集人員（若干名）を含みます。

Ⅱ　入学者選抜制度

「入学者受入れ・選抜の方針」（１頁の「名古屋大学の教育を支える３つの方針」参照）に基づいて，各学部に適した入学者を，多様な方法により選抜します。

一般選抜

大学入学共通テストとともに個別学力検査を重視しています。これら二つの試験を通して，基礎知識，理解力，論理的思考力，論述能力，構成力，計算能力，応用力などを問います。

Ⅲ　一般選抜

１．試験実施日程等

一般選抜は，分離分割方式（前期日程・後期日程）により，次のとおり募集します。

方　　式	分離分割方式	
日　　程	前期日程	後期日程
試験実施学部等	全学部	医学部医学科
試験実施日	令和３年２月25日（木）・26日（金）	令和３年３月12日（金）

２．出願資格

本学の一般選抜に出願することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者で，令和３年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目（「Ⅲ３．大学入学共通テストの受験を要する教科・科目」16～18頁参照）を受験した者とします。

1　高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び令和３年３月卒業見込みの者

2　通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和３年３月修了見込みの者

3　学校教育法施行規則第150条の規定により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和３年３月31日までにこれに該当する見込みの者

これらの者は，次のとおりです。

ア　外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和３年３月31日までに修了見込みの者，又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

イ　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和３年３月31日までに修了見込みの者

ウ　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和３年３月31日までに修了見込みの者

エ　文部科学大臣の指定した者

オ　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び令和３年３月31日までに合格見込みの者で，令和３年３月31日までに18歳に達するもの

カ　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和３年３月31日までに18歳に達するもの

【注】上記出願資格３のカにより出願する者は，個別の入学資格審査が必要となります。令和３年度大学入学共通テスト出願の際，他大学の入学資格審査を受けた者で，その後，本学に志望変更する者

については，下記の申請期間に申請してください。なお，審査対象，申請手続等の詳細については，本学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/ →入学案内→学部入試の概要→入学資格個別審査のご案内→審査内容（一般選抜））で確認してください。

申請期間　令和３年１月18日(月)～１月22日(金)17時必着

後期日程（医学部医学科）の出願要件

後期日程（医学部医学科）に出願することができる者は，上記の出願資格を有し，かつ，以下の要件のいずれかを満たす者とします。

１．入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること

２．入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

３．大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

一般選抜に出願することができる者は，「令和３年度大学入学共通テスト」の教科･科目のうち，各学部（学科）が指定した下記の教科・科目を受験した者に限ります。一つでも受験しなかった場合には，出願できません。受験を要する教科・科目は，志願する学部（学科）により異なっていますので十分に注意してください。本学では，大学入学共通テストの成績の複数年度利用は行いません。

なお，下表を利用して志願者自身で，志願する学部（学科）の受験科目をチェックして，本学の出願資格を満たしていることを必ず確認し，出願するようにしてください。

後期日程（医学部医学科）については，出願資格及び15頁の出願要件も確認してください。

◎大学入学共通テストの受験を要する教科・科目確認表

文学部，法学部，経済学部，情報学部（人間・社会情報学科）

［５教科８科目又は６教科８科目］

教科	科目	確認欄	
国　語	国語		
地理歴史･公民	世界史Ｂ，日本史Ｂ，地理Ｂ，「倫理，政治・経済」から２		
数　学	数学Ⅰ・数学Ａ		
	数学Ⅱ・数学Ｂ，簿記・会計，情報関係基礎　から１		注１）
理　科	物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎　から２		注２）
外国語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語　から１		注３）

教育学部

［５教科７～８科目又は６教科７～８科目］

<table>
<tr><th>教科</th><th colspan="2">科目</th><th>確認欄</th><th></th></tr>
<tr><td>国　語</td><td colspan="2">国語</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">地理歴史･公民</td><td rowspan="2">世界史Ｂ,日本史Ｂ,地理Ｂ,「倫理,政治･経済」から１又は２</td><td rowspan="4">から３</td><td></td><td rowspan="4">注５）</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">理　科</td><td rowspan="2">物理基礎,化学基礎,生物基礎,地学基礎,物理,化学,生物,地学から１又は２(ただし，基礎を付した科目×２科目で１とする。)</td><td></td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">数　学</td><td>数学Ⅰ・数学Ａ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>数学Ⅱ・数学Ｂ，簿記・会計，情報関係基礎　から１</td><td></td><td></td><td>注１）</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td>英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語　から１</td><td></td><td></td><td>注３）</td></tr>
</table>

情報学部（自然情報学科），農学部

［５教科７科目］

教科	科目	確認欄	
国　語	国語		
地理歴史･公民	世界史Ｂ，日本史Ｂ，地理Ｂ，「倫理，政治・経済」から１		注４）
数　学	数学Ⅰ・数学Ａ		
	数学Ⅱ・数学Ｂ，簿記・会計，情報関係基礎　から１		注１）
理　科	物理，化学，生物，地学　から２		
外国語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語　から１		注３）

情報学部（コンピュータ科学科）

［5教科7科目］

教科	科目	確認欄	
国　　語	国語		
地理歴史･公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1		注4）
数　　学	数学Ⅰ・数学A		
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1		注1）
理　　科	物理		
	化学，生物，地学 から1		
外 国 語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1		注3）

理学部

［5教科7科目］

教科	科目	確認欄	
国　　語	国語		
地理歴史･公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1		注4）
数　　学	数学Ⅰ・数学A		
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1		注1）
理　　科	物理，化学，生物，地学 から2 （ただし，物理，化学のいずれかを含むこと。）		
外 国 語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1		注3）

医学部（医学科，保健学科）

［5教科7科目］

教科	科目	確認欄	
国　　語	国語		
地理歴史･公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1		注4）
数　　学	数学Ⅰ・数学A		
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1		注1）
理　　科	物理，化学，生物 から2		
外 国 語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1		注3）

工学部

［5教科7科目］

教科	科目	確認欄	
国　　語	国語		
地理歴史･公民	世界史B，日本史B，地理B，「倫理，政治・経済」から1		注4）
数　　学	数学Ⅰ・数学A		
	数学Ⅱ・数学B，簿記・会計，情報関係基礎 から1		注1）
理　　科	物理		
	化学		
外 国 語	英語，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語 から1		注3）

注１）「数学」において，「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を受験できる者は，高等学校又は中等教育学校の普通科・理数科系を除く学科において，これらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。

なお，「情報関係基礎」を履修した者には，普通教科「情報」として開講された科目（社会と情報・情報の科学等）を履修した者は該当しません。

注２）「理科」において，基礎を付した４科目のうちから２科目と基礎を付していない４科目のうちから１科目を選択した場合には，基礎を付した２科目の成績を用います。（ただし，教育学部については，注５）を参照のこと）

なお，基礎を付した科目を２科目とも選択せずに，基礎を付していない科目から１科目を選択した場合も出願を認めることとし，基礎を付していない１科目（２科目選択した場合は，第１解答科目）の成績を用います。（ただし，教育学部については，注５）を参照のこと）

「理科」における基礎を付した科目とは物理基礎，化学基礎，生物基礎，地学基礎を示します。

「理科」における基礎を付していない科目とは物理，化学，生物，地学を示します。

注３）「外国語」の「英語」を選択した場合には，リスニングテストを全学部で課します。

注４）「地理歴史」及び「公民」において，指定した教科・科目数を超えて受験した場合には第１解答科目の成績を用います。

なお，第１解答科目が指定した科目でない場合には，出願することができません。

注５）教育学部における「地理歴史」及び「公民」と「理科」の選択については，以下のとおりとします。ただし，「理科」において基礎を付した科目×２科目で１（科目）として扱います。

「理科」は同一名称を付した科目の組み合わせ（「物理基礎，化学基礎」と「物理」など）はできません。この組み合わせで受験した場合は，基礎を付した科目と基礎を付していない科目のうちから高得点の１科目のみを有効とします。

「地理歴史」及び「公民」と「理科」をそれぞれ２科目受験し，いずれも有効な場合は，「地理歴史」及び「公民」の第１解答科目に加えて，以下に示す２科目の計３科目を採用します。

・「理科」において基礎を付した科目を受験した場合は，「理科」の２科目と，「地理歴史」及び「公民」の第２解答科目のうちから高得点の２科目を採用します。

・「理科」において基礎を付した科目を受験しなかった場合は，理科の第１解答科目に加えて，「理科」と「地理歴史」及び「公民」の第２解答科目のうちから高得点の１科目を採用します。

4．出願に当たっての留意事項

(1)　本学学部間の併願

本学では，「前期日程」で試験を実施する全学部と「後期日程」で試験を実施する医学部医学科との併願を認めます。

(2)　他大学との併願

本学の「前期日程」に出願する者は，他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ。）の「前期日程」には出願することができません。また，本学の「後期日程」に出願する場合も他の国公立大学・学部の「後期日程」には出願することができません。

※公立大学協会ホームページ（http://www.kodaikyo.org/nyushi）参照

(3)　学校推薦型選抜及び一般選抜における併願受験の「合格者」の取扱い

①　本学及び他の国公立大学・学部の学校推薦型選抜の合格者は，当該大学の定める手続により入学辞退の許可を得ている場合を除き，本学の一般選抜を受験しても，その合格者とはなりません。

②「前期日程」の試験に合格し，当該大学の定める期日までに入学手続を行った者は，「後期日程」又は「中期日程」の試験を受験しても，その合格者とはなりません。

(4)　障害のある者等の出願

障害のある者等で，受験上の配慮を必要とする者は，出願に先立ち，以下によりあらかじめ相談してください。

①　相談の時期

令和２年12月18日（金）まで

②　相談の方法

以下の３点の書類を提出してください。なお，必要に応じて，本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

○　出願予定の選抜種別，志望学部･学科（専攻），障害等の状況，受験上の配慮を希望する事項等に志願者本人の氏名，郵便番号，住所，電話番号を記載したもの（様式は自由，用紙はＡ４サイズ）

○　障害等に関する医師の診断書，障害者手帳等（写しでもかまいません。）

○　出身学校関係者の添書（学校における修学状況及び学習上の配慮状況等を記載したもので，様式は自由，用紙はＡ４サイズ）

なお，大学入学共通テストの受験に際して受験上の配慮を受ける者は，大学入試センターから交付される「受験上の配慮事項決定通知書」の写しを併せて添付してください。

また，入学後の修学に関して相談の希望がある者は，お問い合わせください。

③　相談先

入学試験事務室（裏表紙参照）

④　出願時

相談後，本学から交付される「配慮事項決定通知書」の写しを出願時に他の出願書類と一緒に提出してください。

5．選抜方法及び合格判定基準

本学の一般選抜における入学者選抜は次のとおり実施します。

〔前期日程〕

選抜方法：大学入学共通テスト，個別学力検査，調査書及び書類審査（医学部医学科のみ）により総合的に行います。なお，医学部医学科は書類審査の結果によっては，その他の成績にかかわらず，不合格となる場合があります。

実施学部：全学部

〔後期日程〕

選抜方法：大学入学共通テスト，志願理由書，調査書及び面接により総合的に行います。

実施学部・学科：医学部医学科

※この選抜は，愛知県内の地域医療を担う人材の育成を目指すものです。

(1)　高得点者選抜

上記選抜方法のほか，前期日程試験において，工学部では大学入学共通テスト及び個別学力検査の高得点者選抜を，農学部では個別学力検査の高得点者選抜を下記のとおり行います。

〔 工 学 部 〕

工学部の合格者の決定に当たっては，大学入学共通テスト及び個別学力検査の高得点者を次のとおり取り扱います。

○　大学入学共通テストの高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10％を限度として，個別学力検査の成績が定められた基準を上回る者について，第１志望学科【注】に限り，大学入学共通テストの成績によって選抜を行います。

○　個別学力検査の高得点者選抜

各学科の前期日程募集人員の10％を限度として，第１志望学科【注】に限り，大学入学共通テストの成績にかかわらず，個別学力検査の成績によって選抜を行います。

〔 農 学 部 〕

○　個別学力検査の高得点者選抜

農学部の合格者の決定に当たっては，個別学力検査の高得点者について第１志望学科【注】に限り，各学科の前期日程募集人員の20％を限度として大学入学共通テストの成績にかかわらず，個別学力検査の成績によって選抜を行います。

【注】工学部及び農学部では，第２志望学科までの志願を認めます。

(2)　２段階選抜

〔後期日程〕

医学部医学科の試験実施に当たっては，60人（志願倍率12倍）を基準に行うこととし，大学入学共通テストの得点順に上位60名程度を第１段階選抜の合格者とします。

第１段階選抜の合格者に対しては第１段階選抜合格通知書と受験票を，不合格者に対しては不合格通知書を，令和３年３月１日(月)以降に大学から発送することによりお知らせします。

(3)　大学入学共通テスト及び個別学力検査の配点

大学入学共通テスト及び個別学力検査の配点は30～31頁に記載のとおり取り扱います。

(4)　医学部医学科の後期日程について

国の施策に基づき，愛知県内の地域医療を担う人材を育成するため，本学医学部医学科において，後期日程試験により５名を募集します。

本選抜の出願要件は，(注１）愛知県内出身者で卒業後に愛知県内の地域医療に従事しようとする強い意欲を持つ者とします。これには，愛知県内出身者の高校既卒者等も志願することができます。

本選抜で入学した者は，愛知県から月額15万円程度の奨学金貸与を受けることが必須となります。また，卒業後は，愛知県内の基幹型臨床研修病院のプログラムに基づく２年間の研修と，愛知県が指定する（注２）公的医療機関等における７年間の勤務とを合わせて９年間の地域医療に従事することを義務としています。また，愛知県では義務年限等に関する取扱いを規定した(注３）「キャリア形成プログラム」を策定しており，このプログラムに参加する必要があります。

さらにカリキュラムについては，正規カリキュラムの一部科目の履修指定及び課外学習から構成される「地域医療に関するカリキュラム」の履修を義務付けています。正規カリキュラムにおいては，３年次の基礎医学セミナーや４年次の選択講義等で，地域医療教育学講座が担当する授業の選択が必須となります。また，課外実習として，地域医療セミナー（年６回程度開催）や愛知県主催の研修会への参加も義務付けられています。

なお，「地域医療に関するカリキュラム」は年度ごとに見直されるため，カリキュラム・課外学習等の変更があり得ます。

（注１）後期日程（医学部医学科）に出願することができる者は，14～15頁の出願資格を有し，かつ，以下の要件のいずれかを満たす者とします。

１．入学志願者の出身高等学校又は中等教育学校が愛知県内であること

２．入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること

（注２）愛知県内の医師の確保が困難な地域に所在する公的医療機関及び独立行政法人が開設する県内の医療機関のうち，知事が指定する医療機関で，「地域の中核病院」などを想定しています。

（注３）「キャリア形成プログラム」については，〔URL：http://www.pref.aichi.jp/soshiki/imu/kyariakeisei.html〕に掲載されています。

【卒業後の勤務パターン（一例）】

下表により卒業後の勤務パターンの一例を示します。

大学１年生　　　　大学６年生					
在学期間 ６年間	県内で 臨床研修 （２年間）	知事の承認を受けて 専門医(後期)研修 （３～４年以内） ［うち２年間を 義務年限に算入(※)］	県の指定する 公的医療機関等に 勤務① （２年間）	県の指定する 公的医療機関等に 勤務② （３年間）	県の指定する 公的医療機関等に 勤務③ （２年間）

※知事が指定する専門医研修の場合は，２年間を義務年限に算入できます。
　義務年限に算入されない専門医研修の場合は，公的医療機関等での勤務が増えます。（③の勤務あり）

このほかに，専門研修の開始時期は，本人の希望により柔軟に対応できます。例えば，県内で２年間研修し，県の指定する公的医療機関等に２年間勤務した後に，専門研修を経て，県の指定する公的医療機関等に勤務することも可能です。

地域枠医師が医師不足病院へ赴任する際に，愛知県が地域枠医師に対して望む診療科（推奨する診療科）は以下のとおりとする。

○「地域医療連携のための有識者会議（平成25年３月29日開催）」において決定された推奨する診療科
- 内科系（内科，総合内科，呼吸器内科，循環器内科，消化器内科，神経内科）
- 外科系（外科，消化器外科）
- 整形外科
- 救急科
- 麻酔科
- 小児科
- 産婦人科

○「平成27年度第２回愛知県地域医療支援センター運営委員会（平成28年３月29日開催）」において追加決定された推奨する診療科
- 総合診療

(5)　その他

①　文学部，教育学部，法学部，経済学部及び理学部は学部全体として募集し，合格者を決定します。

②　情報学部，工学部及び農学部は学科別に募集し，合格者を決定します。

③　医学部では，医学科は学科で募集し，保健学科は専攻別に募集し，合格者を決定します。

④　医学部保健学科では，第２志望専攻までの志願を認めます。ただし，保健学科の各専攻は，それぞれ教育内容に特徴があることを十分考慮してください。
　選抜に当たっては，各専攻の募集人員の８割程度については，第１志望の志願者を対象に行います。その上で，２割程度については，第１志望及び第２志望の志願者を対象に行います。

⑤　工学部及び農学部では第２志望学科までの志願を認めます。

6．個別学力検査期日・時間

(1) 前期日程

学部・学科		2月25日(木)		2月26日(金)		2月27日(土)	
		教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間
文学部		外国語 地理歴史	10:00～11:45 13:45～15:15	数学 国語	10:00～11:30 14:10～15:55	実施しません	
教育学部		外国語	10:00～11:45	数学 国語	10:00～11:30 14:10～15:55		
法学部		外国語 小論文	10:00～11:45 13:45～15:15	数学	10:00～11:30		
経済学部		外国語	10:00～11:45	数学 国語	10:00～11:30 14:10～15:55		
情報学部	自然情報学科	外国語 理科	10:00～11:45 13:45～15:00	数学	10:00～12:30		
	人間・社会情報学科	外国語 地理歴史(選択)	10:00～11:45 13:45～15:15	数学 (選択)	10:00～11:30		
	コンピュータ科学科	外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学	10:00～12:30		
理学部		外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学 国語	10:00～12:30 14:10～14:55		
医学部	医学科	外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学 国語	10:00～12:30 14:10～14:55		
	保健学科	外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学 国語	10:00～12:30 14:10～14:55		
工学部		外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学	10:00～12:30		
農学部		外国語 理科	10:00～11:45 13:45～16:15	数学	10:00～12:30		

【注】情報学部人間・社会情報学科は，「地理歴史」又は「数学」のうち，出願時に選択した1科目を受験しなければなりません。

(2) 後期日程

学部・学科	3月12日(金)	
	教科等	時間
医学部医学科	面接	8:20 入室開始 8:50 入室完了 9:30 面接開始 16:00頃終了予定

７．個別学力検査試験場

(1)　個別学力検査試験場（64〜65頁参照）

個別学力検査は，下表の試験場で実施する予定です。

出願状況によっては，これ以外の試験場で実施することもありますので，変更する場合は，該当者あてに連絡します。なお，各試験場とも自動車，バイク等での入構はできませんので，公共交通機関等をご利用ください。また，新型コロナウイルス感染症予防として，必要な場合を除いて，保護者の付き添いや構内への入場を原則禁止しておりますので，ご配慮をお願いします。

①　前期日程（筆記試験）

学部・学科	試験場
文学部 教育学部 法学部 経済学部 情報学部 理学部 医学部医学科 工学部 農学部	名古屋大学東山地区試験場 名古屋市千種区不老町 電話（０５２)７８９－５７６５ 地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車すぐ
医学部保健学科	名古屋大学大幸地区試験場 名古屋市東区大幸南１－１－２０ 電話（０５２）７１９－１５１８･１５２２ ①　地下鉄名城線利用の場合 ･「ナゴヤドーム前矢田」駅下車（１番出口）　徒歩約10分 ･「砂田橋」駅下車（１番出口）　徒歩約10分 ②　ＪＲ中央本線又は名鉄瀬戸線利用の場合 ･「大曽根」駅から市バス砂田橋行（名駅15） 「大幸三丁目」下車すぐ ･「大曽根」駅からガイドウェイバス・ゆとりーとライン 「ナゴヤドーム前矢田」駅下車　徒歩約７分

②　後期日程（面接）

学部・学科	試験場
医学部医学科	名古屋大学鶴舞地区試験場 名古屋市昭和区鶴舞町６５ 電話（０５２）７４４－２４３０ ①　地下鉄鶴舞線利用の場合 ･「鶴舞」駅下車（４番出口）　徒歩約８分 ②　ＪＲ中央本線利用の場合 ･「鶴舞」駅下車（名大病院口）　徒歩約３分

⑵　試験場下見

試験場の下見はできますが，建物内への入場はできません。なお，各試験場には，下記の日時に試験室の案内等を掲示します。

①　前期日程（東山地区試験場，大幸地区試験場）

令和３年２月24日(水)14時から18時まで

②　後期日程（鶴舞地区試験場）

令和３年３月11日(木)14時から16時まで

8．個別学力検査実施教科・科目

各学部（学科）が指定するすべての教科・科目等を受験しなければなりません。

学部・学科等		教科	科目等
文学部	前期日程	国語	国語総合・現代文Ｂ・古典Ｂ
		地理歴史	世界史Ｂ，日本史Ｂ，地理Ｂから１科目選択
		数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ
		外国語	英語
教育学部	前期日程	国語	国語総合・現代文Ｂ・古典Ｂ
		数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ
		外国語	英語
法学部	前期日程	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ
		外国語	英語
		小論文	高等学校の地理歴史，公民の学習を前提とします。
経済学部	前期日程	国語	国語総合・現代文Ｂ・古典Ｂ
		数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ
		外国語	英語
情報学部　自然情報学科	前期日程	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ａ・数学Ｂ
		理科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物，地学基礎・地学から１科目選択
		外国語	英語
情報学部　人間・社会情報学科	前期日程	地理歴史 数学	世界史Ｂ，日本史Ｂ，地理Ｂ 数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ａ・数学Ｂ　｝から１科目選択
		外国語	英語
情報学部　コンピュータ科学科	前期日程	数学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Ａ・数学Ｂ
		理科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物，地学基礎・地学から２科目選択 ただし，物理基礎・物理を含むこと。
		外国語	英語

学部・学科等			教科・科目等	
理学部		前期日程	国　語	国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。）
			数　学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
			理　科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物，地学基礎・地学から２科目選択 ただし，物理基礎・物理，化学基礎・化学のいずれかを含むこと。
			外国語	英語
医学部	医学科	前期日程	国　語	国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。）
			数　学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
			理　科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から２科目選択
			外国語	英語
		後期日程	面　接	※大学入学共通テスト，志願理由書，調査書及び面接（英文の課題に基づいた口頭試問を含む。）により選抜
	保健学科	前期日程	国　語	国語総合・現代文B（古文・漢文を除く。）
			数　学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
			理　科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から２科目選択
			外国語	英語
工学部		前期日程	数　学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
			理　科	物理基礎・物理と化学基礎・化学
			外国語	英語
農学部		前期日程	数　学	数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B
			理　科	物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物から２科目選択
			外国語	英語

【注】(1)　情報学部人間・社会情報学科の「地理歴史」と「数学」については，出願時に選択した受験科目を受験しなければなりません。試験当日，受験科目を変更して受験することはできません。

(2)　出題範囲等について

①「数学」

「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題し，「数学B」は「数列」，「ベクトル」から出題します。「数学」の試験については，試験室において公式集を配付します。

②「理科」

物理：「物理基礎・物理」は「物理基礎」，「物理」の全範囲から出題します。
化学：「化学基礎・化学」は「化学基礎」，「化学」の全範囲から出題します。
生物：「生物基礎・生物」は「生物基礎」，「生物」の全範囲から出題します。
地学：「地学基礎・地学」は「地学基礎」，「地学」の全範囲から出題します。

③「外国語」

英　語：「コミュニケーション英語Ⅰ」・「コミュニケーション英語Ⅱ」・「コミュニケーション英語Ⅲ」・「英語表現Ⅰ」・「英語表現Ⅱ」の５科目を併せて出題します。

④　27頁～29頁の「９．個別学力検査実施教科・科目の出題方針について」において，一部の科目に「教科書の発展的な内容を出題する」旨記載していますが，令和３年度入試については，原則，教科書に記載されている発展的な内容からは出題しません。ただし，設問中に補足事項等を記載した上で，発展的な内容を出題することがあります。

(3)　得点調整について

選択科目間で得点調整を行う場合があります。

9．個別学力検査実施教科・科目の出題方針について

〔前期日程〕

教科・科目等		出題方針
国語		国語の問題は〈現代文〉１題，〈古文〉１題，〈漢文〉１題の計３題を出題します。（国語を課す学部のうち，理学部および医学部の志望者は〈現代文〉のみを解答することになります。）いずれも，国語に関する基礎知識を前提に，問題文の正確な読解力と思考力，そして解答をまとめる表現力を問います。 〈現代文〉は，まず，問題文が正確に読み取れているかを問います。そのため，漢字の読み・書き取りについても，文脈を正確に理解していないと解けない問題も出題しています。設問は，記述式の問題が中心ですが，その設問に答えていくことで，問題文のより深い読解ができるように配慮しています。また，傍線部や空欄の前後だけではなく，文章全体を論理的に把握した上で，細部にも目を向けていくような読み方を求めています。解答にあたっては，与えられた字数内で的確に表現する力も測ります。 〈古文〉は，まず，基本的な語彙・文法，和歌・俳句などについての知識，そして文学史などの基本的な知識が身についていることが前提です。その上で，問題文の全体的な論旨の流れ，作者の心情，和歌・俳句などの解釈，比喩の意味などを理解することを求めます。さらに，解答にあたっては，限られた範囲の字数で適切に表現する能力についても測ります。 〈漢文〉は，漢文を読み解く前提となる，基本的な重要語および句法（句形）を理解しているか，そして，文脈の中で適切に口語訳あるいは書き下しができるかを問います。その上で，問題文の読解にあたっては，文脈を正確に把握することはもちろん，その文章内の時代背景や思想，登場人物についても理解できているかを判断します。また，解答にあたっては，与えられた字数内で適切に表現する能力についても測ります。
地理歴史	世界史	世界史では，古代から現代までの世界の歴史事象について，高等学校までに学校教科書で学ぶ世界史の基礎知識を踏まえて，問題文と関連史資料を正確に理解し，設問に的確に答える力を判定します。また，論述問題では，これまでに修得した世界史の知識を踏まえて，制限字数の範囲内で設問に対する自分の考えを論理的にまとめる思考力と構成力を特に重視します。 世界史が対象とする地域は多岐にわたっていますが，それらの地域の歴史について考えるにあたっては，常に私たちが暮らしている現代の社会がその出発点となります。しかし，このことは，決して時空間を遠く隔てた世界の歴史事象の軽視を正当化するものではありません。世界の歴史は時系列に沿って単純に展開するものではなく，そこにはその時々において繰り返し参照される過去があり，それが歴史の動態に様々な影響を及ぼしていることを見逃してはならないでしょう。また，複数の世界のあいだで行われた交易や戦争，あるいは思想の伝播などの複雑な異文化交渉がしばしば歴史の原動力となったことにも，注意が向けられなくてはなりません。これらのことは，教科書の静態的な叙述を漫然と読み流しているだけでは理解が難しいことかもしれませんが，歴史書，文学作品，映像，絵画や音楽などの芸術作品も手がかりとすることによって，世界各地の過去の人々の暮らしに対するイメージを膨らませながら，個々の歴史事象とその相互関係を理解するように努めてください。
	日本史	日本史では，原始・古代から現代までを対象にして，高等学校までに学校教科書で学ぶ歴史・日本史・世界史の基礎知識を踏まえて，問題文を正確に読み解き，設問および関連資料をも活用しながら，与えられた制限字数の範囲内で的確な語句・文または文章で答案を作成する力を判定します。 日本史が対象とする地域は「日本」ですが，その意味する範囲は時代によって広がったり縮んだりして変化します。そうした変化は，「日本」という地域内に生きた人々の営みや，「日本」を取り巻く周辺地域との人的・物的・文化的な様々な相互交渉によってもたらされてきました。「日本」を取り巻く周辺地域として分かりやすいのは，たとえば朝鮮半島や中国大陸といった「外国」でしょうが，日本史を教え学ぶ立場からすれば，日本列島内部にもそうした周辺地域は存在します。また，そうした「日本」という地域の伸縮は，「日本」という概念にも変化を与えることになりますから，現代における「日本」「日本人」「日本文化」について，相対的，批判的，多角的に考え直すことが必要となってきます。こうした様々な変化は学校教科書にも記述されていますが，少し意識しないと見過ごしてしまうかもしれません。時代や地域の変化に留意しながら，原始・古代から現代にいたる時代それぞれの歴史的事象を理解するよう努めてください。 設問には歴史資料や図表などが添えられることがあります。それらは学校教科書に掲載されている資料・図表ばかりではありませんが，これまでに学習してきた日本史等の教科を通して身につけた知識を使うことによって読み解くことができるものばかりです。未知の資料・図表であっても，そうした既知の知識を活用して的確に判断できるよう求めるものです。そして，答案は一定の字数制限のもとで作成することになりますから，筋道を立てて説明する論理的な文章を的確に整理して書くよう努めてください。

教科・科目等		出　題　方　針
地理歴史	地　　理	地理では，現代世界にかかわる様々な地理的事象について，高等学校までに学校教科書で習得する〈系統地理〉，〈地誌〉の知識を踏まえて，問題文と図表を正確に読解し，的確な表現と適切な字数で設問に答える能力を判定します。 〈系統地理〉は，自然地理学と人文地理学の二つに大別されます。前者においては，地震や火山，河川，氷河などによって形成される地形，気温や降水量，風といった要素の総合的な状態を扱う気候，気温や降水量と密接に関係する植生や土壌，さらには環境問題や災害などに代表される自然環境と人間生活との関わりを理解することが求められます。後者においては，現代世界における資源，農林水産業や工業，商業といった産業，人口分布やその変化，都市・村落の機能とそれらの変容，衣食住に代表される生活文化，民族・宗教に関する諸事象の空間的特徴とそれらが生起する要因について問います。〈地誌〉では，歴史や文化などを基礎とし，現代世界を構成する諸地域をさまざまな空間スケールで多面的･多角的に考察し，現代における多様な地域の今日的な特徴や課題を深く理解する能力が要求されます。 地理の出題では，こうした〈系統地理〉と〈地誌〉に関する基本的な知識とともに，総合的な地域理解の基本ができているかどうかを重視します。地表面における自然環境と人間活動を基本として，地理的事象にどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか，位置や距離，空間的な配置，時間変化に留意して，各種の地図や図表，写真などからそれらを読み取ることができるかどうかを問題にします。とくにさまざまな地理情報が表現されている地図の活用および読解能力は必須です。
数　　学		数学では，答えを求めさせる問題以外に，証明問題も出題することがあります。いずれの場合も，解答の形式は，いわゆる論述形式であり，答えを求めさせる問題の場合でも，答えの導出にいたるまでの道筋を記述させて評価対象とします。これにより，高校までに学習する数学の基礎に対する理解を前提とし，名古屋大学での学習に必要な数学的能力が十分に身に付いているかを評価します。問題の趣旨を的確に把握する理解力はもちろんのこと，与えられた前提条件から結論にいたるまでの解答の筋道を組み立てる論理的思考力や，必要な計算をこなして結果を導く計算力，限られたスペースに解答を筋道だった文章で的確にまとめる表現力を測ります。さらに，数学的知識の系統的な理解を必要とする分野融合問題の出題などを通じて，数学の応用力も測ります。これらの能力は互いに独立ではなく，例えば適切な計算量によって計算結果を導くには，計算も予測を持って行う必要があり，論理的に考える力が必要になります。また，それぞれの問題がいくつかの小問から成る場合は，小問の間の関連性を捉えることが求められ，理解力に留まらず，論理的思考力や直観力が問われます。この意味で，数学の能力は総合的に測られるべきものであり，総合的な数学力を測ることのできる問題を出題するようにしています。なお，文系と理系では，出題範囲・試験時間・問題数は異なりますが，出題方針は同じです。
理科	物　　理	物理では，「物理基礎」および「物理」の範囲から出題します。高等学校の物理では，目的意識をもって観察・実験を行うことを通じて，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，体系化された知識に基づいて自然の事物・現象を分析的かつ総合的に考察する能力を身につけることを目標としています。物理学の基礎知識や考え方は，「力と運動」，「熱とエネルギー」，「波」，「電気と磁力」といった様々な概念や原理・法則を系統的に理解するために必須のもので，これらの十分な修得が必要です。 出題では，物理学に関する基本的事項の理解度と物理学的な考察力・探求する能力を見るために，本学が指定する出題範囲から，なるべく分野的な偏りがないようにします。出題にあたっては，物理法則や関係式などの知識や最終的な答を問うだけでなく，そこに至る過程を論理的に述べる記述式問題も出題し，物理的な知識，思考力，理解力，計算力，論証力を総合的に評価します。
	化　　学	化学では，「化学基礎」および「化学」の範囲から出題します。高等学校の化学では，原子・分子と化学結合に関する正しい理解に基づいて，物質の性質や変化についての基本的な概念や原理・法則の理解を深めることを目標としています。自然界に存在する物質，生物体を形成し生体内で働く物質，人間生活を支える目的で作り出された物質，環境問題や持続性に関連する物質などについての幅広い知識を論理的に組み合わせて活用する能力，またそれらを観察や実験を通して得られた知見と結び付けて活用する能力が必要です。 出題では，「無機化学分野」，「有機化学分野」，「理論化学分野」などの枠にとらわれず，教科書の発展的内容なども出題するなど，各分野にわたった総合的な内容を重視します。化学反応式や数式で表された物質やエネルギーの状態や変化を理解し予測する力，観察・実験結果を物質の性質や変化に関する原理や法則と結びつける力，グラフ・図・化学構造式などの含まれる化学的な情報を読み解く力，実験結果などの図表として記述する力，観察・実験の目的と試薬・器具・条件・手順などとの関連を理解する力，解答に至る過程を論理的に記述する力，などを評価します。

<table>
<tr><th colspan="2">教科・科目等</th><th>出　題　方　針</th></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td>生　物</td><td>生物では,「生物基礎」および「生物」の範囲から出題します。高校学校の生物では，大学で学ぶ生物学だけでなく，農学，医学，創薬学，環境学など広範なライフサイエンス分野全般の基礎を身につけることを目標としています。生物学で取り扱う空間的スケールは，原子・分子レベルのミクロの事象から，細胞，個体を経て，生態レベルのマクロな事象まで幅広く，時間的スケールも「一瞬」から数十億年にも及びます。結果として，生物は理科の中では教科書の情報量が最も多く，ともすると暗記科目とみなされがちですが，生命現象の基本原理を理解することが必要です。
出題では，生命体の構造，物質代謝，生理，遺伝など，生命現象の根幹に関する基礎知識や理解を幅広く問いますが，各論的な事象に関する知識のみを問う問題を中心に据えることはありません。「観察に基づいて検証可能な仮説を立て，実験的に検証する」という自然科学の普遍的な方法論は生物学においても不可欠です。したがって，複雑な生命現象を注意深く観察する力，実験を組み立てる力，データを正しく読み取り分析する力，生命現象の背景にある物質的基盤やメカニズムを論理的に洞察し，論述する力，を評価します。</td></tr>
<tr><td>地　学</td><td>地学では,「地学基礎」および「地学」の範囲から出題します。高等学校の地学では，宇宙から地球，さらに地球を構成する原石中の鉱物に至るまでの幅広い空間スケールの対象を学びます。また時間スケールも，宇宙や地球の進化から私たちが日常的に接している気象現象まで，広い範囲の対象を学ぶことを目標としています。こうした様々な対象を扱う分野についての基礎知識の理解度とそれに基づいた考察力を身につけることが必要です。
出題では，教科書の発展的内容に相当することや，環境問題や自然災害などの最近の話題に関することも出題するなど，地学の各分野の基礎知識だけでなく，分野をまたいだ総合的な内容を重視します。解答を通じて，地学に関する基礎知識の理解度，図表が示す情報を読み解く力，式の組み立てや計算などを通じて定量的に考察できる能力，与えられた情報や得られた結果に対する総合的な思考力，結果や考察を論理的に説明・記述する能力などを評価します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">英　語</td><td>名古屋大学の英語教育では,「英語の専門書を読み，英語で論文を書いて口頭発表するために必要な基礎力を養成する」点に主眼が置かれています。したがって個別学力試験「英語」では，リーディングとライティングの問題を通して，英語で表現された情報を正確に把握する力と英語を使って発信する力があるかどうかを問います。
リーディングの総合問題では，論旨の展開をおさえながら読み，書かれた内容を正確に理解する力や，文脈に即して作者の意図を読み解く力を測定します。
会話文形式のリーディング問題では，談話の流れに沿って内容を把握する力や，英語の質問に英語で答える力を測ります。
ライティングの問題では，適切な単語・表現・文法を使って自然な英文を書く力や，自身の意見を英語で論理的かつ正確に表現する力を問います。</td></tr>
<tr><td colspan="2">小　論　文</td><td>小論文では，論述式の問題を通して，課題文の論理を的確に理解したうえで，その理解に基づいて関連する現実の歴史や社会の問題を分析し，自身の理解や分析を与えられた文字数の中で文章として表現する能力を問うています。課題文は，広い意味で法や政治に関わるテーマのものから出題しており，高等学校で学ぶ地理，歴史および公民科目の知識を前提に，課題文を理解するために必要な基礎的な学力を有しているかを評価しています。また，歴史や社会の問題に関心を持っているか，課題文の論理に即して分析するために適切な問題を見つけているか，課題文の論理を応用して自身の視角から問題を分析することができているか，そうして導いた自身の考えを論理的に表現することができているか，などを総合的に評価しています。</td></tr>
</table>

10. 大学入学共通テストと個別学力検査の配点

大学入学共通テストと個別学力検査の配点は，次のとおりです。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">事項 / 学部・学科等</th><th colspan="2">配点</th></tr>
<tr><th>大学入学共通テスト</th><th>個別学力検査</th></tr>
<tr><td colspan="2">文学部</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 200
数学 200
理科 100
外国語 200
計 900点</td><td>国語 400
地理歴史 200
数学 200
外国語 400
計 1,200点</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育学部</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 100又は200
数学 200
理科 100又は200
外国語 200
計 900点</td><td>国語 600
数学 600
外国語 600
計 1,800点</td></tr>
<tr><td colspan="2">法学部</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 200
数学 200
理科 100
外国語 200
計 900点</td><td>数学 200
外国語 200
小論文 200
計 600点</td></tr>
<tr><td colspan="2">経済学部</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 200
数学 200
理科 100
外国語 200
計 900点</td><td>国語 500
数学 500
外国語 500
計 1,500点</td></tr>
<tr><td rowspan="3">情報学部</td><td>自然情報学科</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 100
数学 200
理科 200
外国語 200
計 900点</td><td>数学 400
理科 300
外国語 400
計 1,100点</td></tr>
<tr><td>人間・社会情報学科</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 200
数学 200
理科 100
外国語 200
計 900点</td><td>地理歴史
数学 } 400
外国語 700
計 1,100点</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科学科</td><td>前期日程</td><td>国語 200
地理歴史
公民 } 100
数学 200
理科 200
外国語 200
計 900点</td><td>数学 500
理科 500
外国語 300
計 1,300点</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">事　項
学部・学科等</th><th colspan="2">配　点</th></tr>
<tr><th colspan="3"></th><th>大学入学共通テスト</th><th>個　別　学　力　検　査</th></tr>
<tr><td colspan="2">理　学　部</td><td>前期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 200
理　科 200
外国語 200
} 900点</td><td>国　語 150
数　学 500
理　科 500
外国語 300
} 1,450点</td></tr>
<tr><td rowspan="3">医学部</td><td rowspan="2">医　学　科</td><td>前期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 200
理　科 200
外国語 200
} 900点</td><td>国　語 150
数　学 500
理　科 500
外国語 500
} 1,650点
書類審査（医師あるいは医学研究者になるにふさわしい適性をみる。）</td></tr>
<tr><td>後期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 200
理　科 200
外国語 200
} 900点</td><td>面接（英文の課題に基づいた口頭試問を含む。）</td></tr>
<tr><td>保健学科</td><td>前期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 200
理　科 200
外国語 200
} 900点</td><td>国　語 150
数　学 500
理　科 500
外国語 500
} 1,650点</td></tr>
<tr><td colspan="2">工　学　部</td><td>前期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 100
理　科 100
外国語 100
} 600点</td><td>数　学 500
理　科 500
外国語 300
} 1,300点</td></tr>
<tr><td colspan="2">農　学　部</td><td>前期日程</td><td>国　語 200
地理歴史
公　民 } 100
数　学 200
理　科 200
外国語 200
} 900点</td><td>数　学 400
理　科 600
外国語 400
} 1,400点</td></tr>
</table>

【注】大学入学共通テストにおいて「外国語」の「英語」を選択した場合には，リスニングテストを全学部で課し，リーディングは150点満点に，リスニングは50点満点にそれぞれ換算し，合計点200点満点として活用します。（工学部は100点満点に換算します。）

なお，受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については，リーディングを200点満点に換算します。（工学部は100点満点に換算します。）

大学入学共通テスト特例追試験受験者の配点については46頁を参照してください。

11. 出願手続

出願手続は，インターネット出願システムでの出願登録及び入学検定料の支払いを行った後，以下の出願期間内に必要な出願書類等を速達書留郵便で郵送することにより，完了します。

なお，大学入学共通テスト特例追試験受験者の出願等にかかる出願期間については，別途設定しますので，45頁以降をご確認ください。

(1) インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間

令和３年１月18日(月)10時～同年２月５日(金)15時まで

(2) 出願期間

令和３年１月25日(月)～同年２月５日(金)消印有効

【注】２月８日(月)に名古屋大学の入学試験事務室に到着することを出願書類郵送時にご確認願います。郵送事情により２月８日(月)に到着しないことが想定される場合には，必ず志願票の内容をコピーして予め入学試験事務室にFAXもしくはメール送信してください。

(3) 検定料等の払込方法

① 出願登録の際に必要な料金

ア 入学検定料：17,000円

イ 受験票発送料：353円

ウ 成績開示手数料：300円 ※希望者のみ（49頁参照）

以上ア～ウの料金のほかに支払手数料が必要となります。

※出願書類を受理した後は,「④検定料の返還について」に該当する場合を除き,いかなる理由があっても納入済みの検定料は返還しません。

※検定料免除の対象者は，出願時に検定料を払わずに，入学試験事務室［(052) 789－5765］までご連絡ください。

② 払込期間

令和３年１月18日(月)10時～同年２月５日(金)15時まで

ただし，出願書類の期限は令和３年２月５日(金)消印有効となりますので，検定料は早めに払い込んでください。

③ 払込方法等

入学検定料等の支払いは，以下のいずれかの方法で行ってください。

詳細については，37頁「STEP５（入学検定料の支払い)」を確認してください。

ア クレジットカード

イ ネットバンキング

ウ コンビニエンスストア

エ ペイジー対応銀行ATM

④　検定料の返還について

出願書類を受理した後は，医学部医学科（後期日程）の第１段階選抜不合格者（※）以外は納入済みの検定料は原則返還しません。ただし，以下に該当する場合は，納入された検定料を返還します。なお，返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

ア　検定料納入後，出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ　検定料を二重に払い込んだ場合

＜返還請求方法＞

以下の２点を入学試験事務室（裏表紙参照）に郵送してください。なお，受付期限は令和３年３月31日(水)必着です。

○　氏名（フリガナ），現住所，連絡先の電話番号，返還請求の理由，受付番号（12桁）を記載したもの（様式は自由，用紙はＡ４サイズ）

○　返信用封筒（郵便番号，住所及び氏名を記入し，長形３号封筒に84円切手を貼ったもの）

後日，返還手続に必要な書類を郵送します。

また大学入学共通テスト受験科目の不足等により出願資格がないことが判明した場合は，13,000円を返還します。返還手続については，別途お知らせします。

※医学部医学科（後期日程）の第１段階選抜の不合格者には，申請により13,000円を返還します。これに該当する者には，第１段階選抜結果発表時に返還手続方法について連絡します。

(4)　出願方法

出願書類の提出は郵送に限ります。

35〜38頁「(7)　インターネット出願の流れ」を確認し，インターネットでの出願登録及び入学検定料の支払いを行ったあと，出願書類を郵送してください。

インターネット出願での出願登録及び入学検定料の支払いを行っただけでは出願手続完了にはなりません。

「(6)　出願に要する書類等」を宛名シートを貼った角形２号封筒（240mm×332mm）に入れ，**速達書留郵便**で郵送してください。

また，本学の「前期日程試験」と「後期日程試験」を併願する場合であっても，各試験日程ごとに１名分を封入してください。

(5)　出願書類の郵送先

〒464−8601　名古屋市千種区不老町Ｄ４−４（100）　名古屋大学入学試験事務室

(6) 出願に要する書類等

	出願書類等	注　意　事　項
①	宛名シート	入学検定料納入後に，インターネット出願システムの出願状況確認画面から**Ａ４サイズでカラー印刷**し，角形２号封筒（240mm×332mm）に貼ってください。
②	入学志願票・写真票	入学検定料納入後に，インターネット出願システムの出願状況確認画面から**Ａ４サイズでカラー印刷**してください。 **【顔写真について】** 出願前３ヶ月以内に撮影した正面，上半身，無帽，背景なしの顔写真データ（２MBまで）を用意し，インターネット出願システムからアップロードしてください。なお，写真は，入学試験時の本人確認や，入学者に交付される学生証の写真として使用します。
③	大学入学共通テスト成績請求票	「前期日程試験」に出願する場合は，「前 国公立前期日程用」を，また，「後期日程試験」に出願する場合は，「後 国公立後期日程用」を，入学志願票の所定欄に貼ってください。
④	調査書	調査書は，出身学校長等が作成し，厳封したものに限ります。 ※既卒の方は，卒業後に発行されたものを提出してください。 **高等学校等の進路指導ご担当の方々へ** 本学では，学習成績概評がＡに属する生徒のうち，人物，学力ともに特に優秀な者については，「学習成績概評」の欄にⒶと標示することを希望します。**この場合，「備考」の欄にその理由を必ず明示してください。**
⑤	志願理由書 （医学部医学科志願者のみ）	医学部医学科志願者のみ提出してください。 本学ホームページから所定の様式をダウンロードし，**Ａ４サイズ**で印刷の上，自筆で作成してください。 ただし，前期日程用と後期日程用は，様式，内容が異なりますので注意してください。（本学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/）→入学案内→学部募集要項／大学案内など→大学案内・選抜要項・募集要項・インターネット出願）
⑦	住民票の写し等 （後期日程（医学部医学科）の該当者のみ）	後期日程（医学部医学科）を志願する者で，15頁の「出願要件２（入学志願者の保護者の現住所が出願時に愛知県内であること）」に該当する場合のみ保護者の住民票の写し（続柄が記載されているもの。コピー不可）等を提出してください。 ※１　住民票の写しは個人番号（マイナンバー）及び本籍の記載がないものを提出してください。なお，取得した住民票の写しに個人番号及び本籍が記載されている場合は，油性ペンなどを使用して塗りつぶし，完全に見えない状態で提出してください。 ※２　志願者本人と保護者の現住所が異なる場合は，志願者本人と保護者の関係が分かる書類（健康保険証など（続柄が記載されているもの。コピー可），市区町村役場が発行するもので関係が分かるもの等）を併せて提出してください。

【注】 (1)　やむを得ない事由により出身学校長等の調査書が得られない場合は，以下により対応してください。

ア　廃校，被災，調査書の保存期限の経過，その他の事情により出身高等学校長等の調査書が得られない場合は，卒業証明書と単位修得証明書（単位修得証明書が得られない場合は，成績通信簿の原本）をもってこれに代えることができます。

イ　志願者本人が被災等により上記アの書類を入手できない場合は，出身学校所管の教育委員会，知事又は出身高等学校長等が作成したこれに関する証明書を提出してください。

ウ　高等学校卒業程度認定試験等の合格者については，当該試験の合格成績証明書をもって，調査書に代えることができます。

エ　14～15頁の出願資格３（オ以外）により出願する者の提出書類については，入学試験事務室（裏表紙参照）に照会してください。

(2)　提出された書類等に不備がある場合には，受理しません。

(3)　いったん受理した出願書類等は，いかなる理由があっても返却しません。また，受理後の出願書類等の変更は認めません。

(4)　入学志願票はじめ出願書類等に虚偽の記載をした場合，記載すべき事項を記載しなかった場合又は提出すべき書類を提出しなかったことが判明した場合は，入学決定後でも入学許可を取り消すことがあります。

（7）　インターネット出願の流れ

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6	
事前準備	出願サイトにアクセス	マイページの登録	出願内容の登録	入学検定料の支払い	必要書類の郵送	出願完了

STEP 1 事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。（スマートフォン、タブレットは非推奨）
必要書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…調査書、顔写真データ、大学入学共通テスト成績請求票など
　詳細は学生募集要項34頁参照

STEP 2 インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ https://e-apply.jp/myp/nagoya-u/

または、

大学ホームページ ▶ http://www.nagoya-u.ac.jp/
からアクセス

STEP 3 マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。

①初めて登録する方は 初めての登録の方はこちら からログインしてください。

②メールアドレスの登録を行って 利用規約に同意する をクリックしてください。

③ユーザー登録画面から『トップへ戻る』をクリックしてください。

④登録したメールアドレスに初期パスワードが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。

⑤再度トップ画面から登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて ログインする をクリックしてください。

⑥初期パスワードの変更を行ってください。

⑦パスワード更新画面から『登録画面へ進む』をクリックしてください。

⑧表示された個人情報を入力して『次へ』をクリックしてください。

⑨個人情報を確認して 上記内容で登録する を クリックしてください。

⑩登録完了となります。『トップへ戻る』を クリックしてください。

⑪上記ページが表示されたら マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、出願内容の登録 ボタンをクリックすると 出願手続に進めます。登録期間外の場合は、これより先に進めませんので ログアウト ボタンをおしてください。

STEP 4

出願内容の登録

試験区分	インターネット出願登録期間 及び入学検定料払込期間	出願期間
一般選抜（前期日程）	令和3年1月18日(月) 10時～ 2月5日(金) 15時まで	令和3年1月25日(月)～2月5日(金) 消印有効
一般選抜（後期日程）		

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。

①マイページログイン後の 出願内容の登録 から 登録画面へ

②試験区分、志望学部等の選択

③留意事項の確認

④顔写真のアップロード

⑤個人情報（氏名･住所等）の 入力

⑥申込登録完了
受付番号(12桁)は必ず控えてください。
出願情報を確認する場合と、出願書類を 出力する際に必要になります。

⑦入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード

⑧出願に必要な書類PDF （イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号 番号メモ（13桁）													

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済 番号メモ（11桁）											

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号 メモ（11桁）											

確認番号 メモ（6桁）						

収納機関番号 （5桁）	5	8	0	2	1

※収納機関番号は、ペイジーで お支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。　※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。

申込登録完了後は、登録内容の修正･変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi　LAWSON　MINI STOP

Famiポート　FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン（店頭レジ）
- レジで「インターネット代金支払い」と伝える
- 「払込票番号（13桁）」を伝える
- レジで検定料を現金で支払う※
- 領収書（レシート形式）を必ず受け取る

デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー（店頭レジ）
- レジで「オンライン決済」と伝える
- 「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
- レジで検定料を現金で支払う※
- 領収書（レシート形式）を必ず受け取る

ローソン ミニストップ（Loppi）
- 「各種番号をお持ちの方」を選択
- 「お客様番号（11桁）」入力
- 「マルチペイメントサービス」を選択
- 「確認番号（6桁）」入力
- 支払い内容確認
- 発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※　申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
- 取扱明細書兼領収書を必ず受け取る

ファミリーマート（Famiポート）
- 「代金支払い」（コンビニでお支払い）を選択
- 「お客様番号（11桁）」入力
- 「確認番号（6桁）」入力
- 支払い内容確認
- 発券された申込券（受付票）をレジへ持参し、検定料を現金で支払う※　申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。
- 取扱明細書兼領収書を必ず受け取る

セイコーマート（店頭レジ）
- レジで「インターネット代金支払い」と伝える
- 「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
- レジで検定料を現金で支払う※
- 取扱明細書兼領収書を必ず受け取る

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM（ペイジー対応銀行ATM）
- 「税金・料金払い込み」などを選択
- 収納機関番号「58021」を入力
- 「お客様番号（11桁）」入力
- 「確認番号（6桁）」入力
- 支払い内容確認
- 「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
- ご利用明細書を必ず受け取る

※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

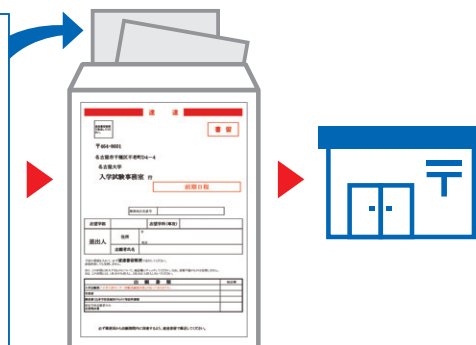
必要書類の印刷と郵送

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を全て**カラー印刷**し、その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から**「速達書留郵便」**で郵送してください。

■出願書類

出願に必要な書類は、学生募集要項34頁を参照して準備してください。
インターネット出願サイトから印刷する書類以外に
調査書、志願理由書（医学部医学科のみ）等がありますので、
注意してあらかじめ準備をすすめてください。

必要書類　調査書

出願書類の郵送先は宛名シートに自動で印字されます。

出願書類提出用宛名シート
市販の角形2号封筒（24㎝×33.2㎝）
に貼り付けて作成

※一旦受理した入学検定料・必要書類は返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、必要書類を郵送して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。
期限は上記（STEP4）を参照してください。

インターネットでの出願登録は24時間可能です。出願登録、検定料の支払は出願締切日15時（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります）です。必要書類の郵送は各募集要項で定められた期間内に行ってください。ゆとりを持った出願を心がけてください。

(8)　受験票の交付

受験票は，インターネット出願サイトで登録した住所へ本人宛に速達で圧着はがきにて送付します。 受験票が届いたら，試験日などの記載事項を必ず確認してください。不備がある場合は速やかに入学試験事務室（裏表紙参照）まで連絡してください。

○前期日程試験

令和３年２月16日(火)以降に大学から発送します。

○後期日程試験

令和３年３月１日(月)以降に大学から発送します。

医学部医学科の第１段階選抜不合格者には，不合格通知が上記日程で発送され，受験票は発送されません。

なお，氏名については，コンピュータで表記できない文字は，文字を置き換えるか，カタカナ等で表記されます。

また，前期日程試験の受験票等が令和３年２月19日(金)までに，後期日程試験の受験票等が令和３年３月３日(水)までに到着しない場合は，入学試験事務室（裏表紙参照）に確認してください。

個別学力検査当日は，「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の二つを必ず持参してください。

12. 受験者心得

新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するための追試験について46頁のとおり実施します。試験当日の体調不良等の場合には本学の医師の判断で追試験受験とする場合がありますので，予めご承知置きください。また，受験前の体調管理には十分に留意すると共に，試験当日はマスクを着用してください。

体調不良等の場合にはホームページに掲載する追試験申請のフロー及び46頁を参考に，追試験を申請してください。

〔前期日程〕（筆記試験）

(1) 指定された試験場以外では，いかなる理由があっても受験できません。個別学力検査筆記試験当日は２日間とも，最初の試験開始時刻の30分前までに指定の試験室に到着してください。（入室開始時刻は２日間とも，８時45分の予定です。）

(2) 試験室内では，監督者の指示に従ってください。試験開始後は，監督者の指示があるまで退室できません。

(3) 試験開始時刻に遅刻した場合は，試験開始後30分以内に限り，受験を認めます。

(4) 試験室への入室，試験開始及び終了の時刻は，チャイム又は振鈴で合図します。

(5) **個別学力検査当日は，「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の二つを必ず持参してください。**

また，「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の二つは，諸手続に必要なので試験終了後も保管しておいてください。

(6) 試験室では，「名古屋大学受験票」の受験番号と同じ番号の席に着き，「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」を机上の番号札のわきに置いてください。

(7) 答案作成に必要な黒鉛筆（シャープペンシルも可），消しゴム，鉛筆削り（電動式を除く），時計（計時機能だけのもの），眼鏡以外の用具は机の上に置くことはできません。数学の試験では直線定規・コンパスを使用しても差し支えありません。ただし，折りたたみ式定規，分度器付き定規，三角定規は使用できません。

(8) 試験室では，携帯電話，スマートフォンや音の出る機器等は，アラーム設定を解除した上で電源を切ってください。また，これらを身につけることは認めないので，かばん等に入れてください。

(9) 試験時間中，発言する必要のあるときは，手を挙げて合図し，監督者の許可を受けてください。

⑽ 次のことをすると**不正行為となります**。不正行為を行った場合は，その場で受験の中止と退室を命じられ，**それ以後の受験はできなくなります**。また，受験した**すべての教科・科目の成績を無効とします**。

ア　入学志願票・写真票，受験票，解答用紙へ**故意に虚偽の記入**（本人以外の写真を登録することや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入する等）をすること。
イ　**カンニング**（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること，他の人から答えを教わること等）をすること。
ウ　他の受験者に**答えを教えたりカンニングの手助けをする**こと。
エ　試験時間中に，**問題冊子を試験室から持ち出す**こと。
オ　**解答用紙を試験室から持ち出す**こと。
カ　解答開始の指示の前に，**問題冊子を開いたり解答を始める**こと。
キ　試験時間中に，**携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末（スマートウォッチなど），電子辞書，ＩＣレコーダー，電卓等の電子機器類を使用する**こと。
ク　解答終了の指示に従わず，**鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続ける**こと。

⑾ 上記⑽以外にも，次のことをすると**不正行為となることがあります**。指示等に従わず，不正行為と認定された場合の取扱いは，上記⑽と同様です。

ア　試験時間中に，携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末（スマートウォッチなど），電子辞書，ＩＣレコーダー，電卓等の電子機器類をかばん等にしまわず，身に付けていたり手に持っていること。
イ　試験時間中に携帯電話，スマートフォンや時計等の音（着信・アラーム・振動音等）を長時間鳴らすなど，試験の進行に影響を与えること。
ウ　試験に関することについて，自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
エ　試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
オ　試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
カ　その他，試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

⑿ 大学構内での喫煙は厳禁とします。

⒀ 個別学力検査下見日及び当日に連絡事項がある場合は，試験室案内を掲示した場所に掲示します。

⒁ 各試験会場は，自動車，バイク等での入構はできませんので公共交通機関等を利用してください。

⒂ 新型コロナウイルスの感染症対策として，各教科の試験終了時に試験会場の換気を行いますので，必要な受験生は暖かい服装を持参してください。

⒃ 上記の他，監督者から特別な指示があった場合は，その指示に従ってください。

13. 合格者発表

(1) 「UCARO（ウカロ）」について

名古屋大学では，合格発表から入学手続までを集約したサイト「UCARO（ウカロ）」を導入しています。

合格発表の確認，および入学手続には「UCARO」への会員登録（無料），および出願連携が必須です。

「UCARO」への会員登録（無料）については，下記URLから参照いただき，登録をお願いします。
https://www.ucaro.net/
※UCAROの登録・閲覧には，パソコン又はスマートフォンが必要になります。
※UCARO会員登録時のID（メールアドレス）及びパスワードは必ず控えるようにしてください。

「出願連携」については，本学のホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/→入学案内→学部募集要項／大学案内など→大学案内・選抜要項・募集要項・インターネット出願）でご確認ください。
※出願連携は，システムの関係上，個別学力検査終了後に行ってください。個別学力検査終了前は，出願連携できません。

また，他大学への出願時等にUCAROへの会員登録した場合に，再度会員登録の手続を行う必要はありませんので，出願連携のみ行ってください。
詳しいことはUCAROに掲載されている「よくある質問」等を参照してください。
https://www.ucaro.net/faq

〈UCAROに関する問い合わせ先〉
問い合わせ内容：UCAROについて
TEL：0570-06-5524
受付時間：午前10～午後６時まで

(2) 合格発表

① 発表日時

前期日程試験	令和３年３月10日（水）15時
後期日程試験	令和３年３月21日（日）12時
前期日程追試験	令和３年３月27日（土）15時

令和３年度一般選抜各日程の結果は上記日時にUCAROと，名古屋大学受験者向けサイト（https://daigakujc.jp/nagoya-u/）で発表します。
名古屋大学受験者向けサイト（https://daigakujc.jp/nagoya-u/）での発表は，本学の情報提供の一環として行うものであり，必ずUCAROより確認してください。

② 合格通知書

合格通知書は，合格者本人宛てにUCAROで配信いたします。各自UCAROでの確認，およびダウンロードをお願いします。

14. 入学手続

入学手続は，下記の期限内に行ってください。

所定の期限内に入学手続を行わなかった場合は，本学への入学を辞退したものとして取り扱いますので，十分注意してください。

〈入学手続期限〉

区分	期限
前期日程試験	**令和３年３月15日（月）15時まで　郵送必着**
後期日程試験	**令和３年３月25日（木）15時まで　郵送必着**
前期日程追試験	**令和３年３月30日（火）15時まで　郵送必着**

〈入学手続方法〉

入学手続の一部，および入学料の納入は，合格発表の際に用いた「UCARO」を引き続き使用し行います。

詳細は，「令和３年度　名古屋大学入学手続要領」（UCARO上で合格者のみ閲覧可能な入学手続ページでダウンロード）により確認することとなりますが，概略は以下のとおりです。

すべて入学手続期限までに完了してください。

① UCAROでの，合格を確認後，入学手続の該当ページで必要事項を入力する。

② UCAROシステムを利用し，学生納入金のうち，入学料等の支払いに関する手続を行い，コンビニエンスストア等から入学料を振込む。

③ 「令和３年度　名古屋大学入学手続要領」に記載されている必要提出書類を，簡易書留速達郵便で郵送する。

〈入学手続書類送付先〉

「令和３年度　名古屋大学入学手続要領」を参照し，必要提出書類を簡易書留速達郵便で郵送してください。

送付先	住所	問い合わせ時間
名古屋大学 入学試験事務室	〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町Ｄ４－４（100）	月曜から金曜 ９：00～17：00

(1) 入学料等学生納入金，および学生教育研究災害傷害保険料（予定）

入学料と学生教育研究災害傷害保険料は次頁表を参考に，UCAROのシステムを利用して手続を行い，コンビニエンスストア等から支払ってください。

学部・学科	入学料	授業料	学生教育研究災害傷害保険料 （＊は学研災付帯賠償責任保険を含む。）
文学部	282,000円	前期分　267,900円 年　額　535,800円	3,300円
教育学部			＊4,660円
法学部			3,300円
経済学部			＊4,660円
情報学部			＊4,660円
理学部			＊4,660円
医学部医学科			＊7,800円
医学部保健学科(看護学専攻除く)			3,370円
医学部保健学科看護学専攻			＊5,370円
工学部			＊4,660円
農学部			＊4,660円

【注】① 入学時又は在学中に学生納入金の改定が行われた場合には，改定時から新たな入学料額及び授業料額が適用されます。
② 納入済みの入学料は返還しません。
③ 授業料は，入学後の納入となります。
④ 学生教育研究災害傷害保険料は，学部（学科）により異なります。
保険料の支払い方法は，入学手続要領を参照してください。
なお，保険料の改定が行われた場合，改定時から新たな保険料が適用されます。
⑤ 入学料等支払時に別途事務手数料が必要になります。事務手数料については「令和３年度名古屋大学入学手続要領」をご確認ください。
⑥ その他，入学に必要な手続の詳細は，入学手続要領を参照してください。

15. 入学辞退手続

合格者であって，本学への入学を辞退しようとする者は，下記日時までに「入学辞退届」（UCAROよりダウンロードできる，本学所定のもの）を入学試験事務室（裏表紙参照）に郵送又はFAXにより提出してください。

なお，「入学辞退届」を提出した者は，本学への入学手続を行うことはできません。

○ 提出期限

前期日程試験合格者　令和３年３月15日（月）12時まで
後期日程試験合格者　令和３年３月25日（木）12時まで

16. 追加合格

合格者の追加を行うことがあります。追加合格実施の有無については，令和３年３月27日（土）17時までに本学ホームページに掲載します。**なお，追加合格実施の有無についての電話等による照会には応じません。**

(1) 期間・対象・方法

期　　間：令和３年３月28日（日）から令和３年３月31日（水）
対　　象：本学の一般選抜を受験した者で，他の国公立大学・学部の入学手続を完了していない者
方　　法：名古屋大学入学志願票に記載されている「緊急連絡先」へ，本人に電話をしますので，本人が不在の場合でも連絡が直ちに行えるように所在を明らかにしておいてください。本学

からの連絡の際，**追加合格候補者が不在等で，本学が連絡してから5時間経過しても連絡・確認ができなかった場合は，入学意思がないものとして取り扱います。**なお，電話が不通の場合には，出願時に登録したメールアドレスに連絡することがあります。「@adm.nagoya-u.ac.jp」からのメールを受信できるよう設定してください。

⑵　入学手続

追加合格の連絡を受け，本学に入学しようとする者は，43頁を参考に，UCAROで入学手続を行ってください。

【注】追加合格者が本学の入学手続を行った場合，他の国公立大学・学部への入学手続はできません。

17. 大学入学共通テスト特例追試験受験者の出願について

1．出願手続

出願手続は，インターネット出願システムでの出願登録及び入学検定料の支払いを行った後，以下の出願期間内に必要な出願書類等を速達書留郵便で郵送することにより，完了します。

2．出願にあたっての事前連絡のお願い

出願にあたってのインターネット出願システムのURLについては入学試験事務室よりご連絡します。令和3年2月8日(月)から令和3年2月17日(水)12時までに，入学試験事務室に電子メールでお問い合わせの上，下記期間に出願願います。

⑴　インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間
令和3年2月15日(月)10時～同年2月18日(木)15時まで

⑵　出願期間
令和3年2月15日(月)10時～同年2月18日(木)消印有効

【注】2月20日(土)までに名古屋大学の入学試験事務室に到着することを出願書類郵送時にご確認願います。郵便事情により2月20日(土)に到着しないことが想定される場合には，必ず志願票の内容をコピーして予め入学試験事務室にFAXもしくはメール送信してください。

「検定料等の払込方法」「出願方法」「出願に要する書類等」「インターネット出願の流れ」については32～38頁をご確認ください。

⑶　受験票の交付

受験票は，インターネット出願サイトで登録した住所へ本人宛に速達で送付します。受験票が届いたら，記載事項を必ず確認してください。不備がある場合は速やかに入学試験事務室（裏表紙参照）まで連絡してください。

○　前期日程試験

令和３年２月20日(土)以降に大学から発送します。

○　後期日程試験

令和３年３月１日(月)以降に大学から発送します。

なお，氏名については，コンピュータで表記できない文字は，文字を置き換えるか，カタカナ等で表記しされます。

また，前期日程試験の受験票等が令和３年２月22日(月)までに，後期日程試験の受験票等が令和３年３月３日(水)までに到着しない場合は,入学試験事務室(裏表紙参照)に確認してください。

個別学力検査当日は,「名古屋大学受験票」と「大学入学共通テスト受験票」の二つを必ず持参してください。

３．大学入学共通テストと個別学力検査の配点

大学入学共通テストと個別学力検査の配点は，30－31頁のとおりです。

ただし，大学入学共通テスト特例追試験において,「外国語」の「英語」を選択した場合には，リスニングテストを全学部で課し，筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計250点満点を200点満点（工学部は100点満点）に換算します。

なお，受験上の配慮事項によりリスニングテストを免除された者については，筆記試験の成績を換算せずにそのまま用います。(工学部は100点満点に換算します。)

18.　一般選抜（前期日程）追試験について

※追試験については，令和３年度入学者選抜に限り実施します

１．追試験対象者

２月25日(木)及び２月26日(金)に実施する一般選抜（前期日程）において，以下に該当する者で追試験の受験を許可されたものが３月22日(月)及び３月23日(火)に実施する追試験を受験できます。

(1)　新型コロナウイルスに罹患し，試験日までに医師が治癒したと判断していない者。

(2)　試験直前に保健所等から，濃厚接触者に該当するとされた者。

(3)　発熱・咳等の症状があり，試験当日の検温で，37.5 以上の熱がある者。

※一般選抜（前期日程）追試験の申請の詳細等については，受験票の発送時期に公表しますので，確認してください。(名古屋大学ホームページ（http://www.nagoya-u.ac.jp/ → 入学案内 → 学部入試の概要 → 学部入試に関するお知らせ)

追試験の概略は次頁の２以降のとおりです。

２．追試験申請に当たっての留意事項

⑴　追試験受験申請書の提出

追試験を申請する際は，「令和３年度名古屋大学個別学力検査追試験受験申請書」及び各医療機関の診断書等の提出が必要です。

申請書については，本学ホームページからダウンロードし**２月26日（金）16時までに**名古屋大学入試事務室（裏表紙参照）へ持参（代理人可能）もしくは，メール又はFAXで提出してください（原本は３月１日（月）必着で郵送すること）。

⑵　追試験受験許可について

申請内容を審査の上，３月３日（水）に追試験受験許可書を送付します。「１．追試験対象者」のうち新型コロナウイルス罹患者は，追試験の受験にあたり，退院証明書等，退院したことがわかる書類や濃厚接触者については，隔離期限がわかる証明等の確認を行います。当該証明書等について３月15日（月）までに入学試験事務室まで提出してください。

なお，追試験会場等については，追試験受験許可証送付時にお知らせします。

⑶　受験科目の選択について

地理歴史（文学部・情報学部（地理歴史選択者））及び理科（情報学部，理学部，医学部，農学部）の受験者は，追試験時に解答する科目を，追試験申請時に「令和３年度名古屋大学個別学力検査追試験受験申請書」の該当欄において選択願います。

追試験受験許可書において選択した科目を記載するため，誤りがあった場合には至急，入学試験事務室までご連絡してください。なお，試験当日の選択科目の変更はできません。

3．追試験日程

4．合格者発表

追試験受験者の合格者発表は，UCARO（42頁参照）と名古屋大学受験者向けサイト（https://daigakujc.jp/nagoya-u/）により**３月27日(土)13時**に行いますので，必ず確認するようにしてください。

5．入学手続

入学手続については，募集要項43頁を参照してください。

追試験の合格者は，令和３年３月30日(火)15時までに入学手続を必ず行ってください。

6．入学辞退

追試験の合格者であって，本学への入学を辞退しようとする者は，令和３年３月30日（火）15時までに「入学辞退届」（UCAROよりダウンロードできる，本学所定のもの）を入学試験事務室（裏表紙参照）に郵送又はFAXにより提出してください。

なお，「入学辞退届」を提出した者は，本学への入学手続を行うことはできません。

19. 個人情報の取扱い

(1) 個人情報については，「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「東海国立大学機構個人情報保護規程」に基づき，適切に管理します。

(2) 出願時に得た住所，氏名，生年月日，その他の個人情報については，入学者選抜，合格者発表，入学手続業務を行うために利用します。

(3) 出願時に得た個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績は，今後の入学者選抜方法の検討資料の作成のために利用します。また，入学者についてのみ①教務関係（学籍，修学指導等），②学生支援関係（健康管理，就職支援，授業料免除・奨学金申請等），③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(4) 上記(2)及び(3)の各種業務での利用に当たっては，一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下，「受託業者」という。）において行うため，受託業者に対して，委託した業務を遂行するために必要となる範囲で個人情報の全部又は一部を提供します。

(5) 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため，氏名，受験番号，合格及び入学手続等に関する個人情報を，独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に情報提供します。

20. 一般選抜における試験成績の開示

本学では，志願者本人の希望により令和３年度一般選抜に係る試験成績について，次により志願者本人に開示します。ただし，後期日程試験の医学部医学科は試験成績の開示は行いません。

(1) 試験成績

① 開示内容

・大学入学共通テストの合計得点（本学での配点に基づく換算点）　・合格者の最高点
・個別学力検査の合計得点　・合格者の最低点
・大学入学共通テストと個別学力検査の合計得点　・合格者の平均点

【注】（1）工学部及び農学部の合格者の最低点は，高得点者選抜を除く一般選抜における合格者の最低点です。
（2）医学部医学科の書類審査に関する評価の開示は行いません。

② 申込方法

試験成績の開示を希望する者は，**出願登録時**に希望するにチェックし，検定料納入の際に300円をあわせて支払ってください。

なお，出願時に試験成績開示を希望しない者には，試験成績の開示はしません。

また，検定料納入後の変更はできませんので注意してください。

③ 開示方法及び時期

令和３年４月12日（月）以降にUCAROで開示します。

令和２年度　名古屋大学入学試験　志願者・受験者・合格者数及び志願倍率一覧

学部・学科等		募集人員(総計)	推薦入試				前期日程				後期日程			
			志願者	受験者	合格者	志願倍率	志願者	受験者	合格者	志願倍率	志願者	受験者	合格者	志願倍率
文学部		125	45	28	15	3.0	229	228	110	2.1	−	−	−	−
教育学部		65	41	20	10	4.1	160	150	59	2.9	−	−	−	−
法学部		150	90	56	45	2.0	222	184	107	2.1	−	−	−	−
経済学部		205	74	60	40	1.9	421	387	172	2.6	−	−	−	−
情報学部	自然情報学科	38	23	12	8	2.9	81	70	32	2.7	−	−	−	−
	人間･社会情報学科	38	16	12	8	2.0	105	97	33	3.5	−	−	−	−
	コンピュータ科学科	59	26	9	6	4.3	142	136	55	2.7	−	−	−	−
	小計	135	65	33	22	3.0	328	303	120	2.9	−	−	−	−
理学部		270	140	76	52	2.8	534	489	228	2.4	−	−	−	−
医学部	医学科	107	19	19	12	1.6	295	271	94	3.3	55	17	5	11.0
	保健学科 看護学専攻	80	55	55	37	1.6	107	77	49	2.4	−	−	−	−
	保健学科 放射線技術科学専攻	40	40	40	13	4.0	107	94	30	3.6	−	−	−	−
	保健学科 検査技術科学専攻	40	36	36	16	2.4	95	82	26	3.8	−	−	−	−
	保健学科 理学療法学専攻	20	16	16	8	2.3	35	29	13	2.7	−	−	−	−
	保健学科 作業療法学専攻	20	7	7	5	1.0	42	38	20	3.2	−	−	−	−
	保健学科 計	200	154	154	79	2.1	386	320	138	3.1	−	−	−	−
	小計	307	173	173	91	2.0	681	591	232	3.2	55	17	5	11.0
工学部	化学生命工学科	99	19	16	8	2.1	185	176	92	2.1	−	−	−	−
	物理工学科	83	8	8	5	1.0	135	130	80	1.8	−	−	−	−
	マテリアル工学科	110	22	19	11	2.0	196	191	103	2.0	−	−	−	−
	電気電子情報工学科	118	32	23	11	2.9	342	332	108	3.2	−	−	−	−
	機械･航空宇宙工学科	150	46	25	14	3.1	414	401	137	3.1	−	−	−	−
	エネルギー理工学科	40	8	7	4	2.0	75	67	38	2.1	−	−	−	−
	環境土木･建築学科	80	17	17	8	2.1	186	176	75	2.6	−	−	−	−
	小計	680	152	115	61	2.3	1,533	1,473	633	2.5	−	−	−	−
農学部	生物環境科学科	35	17	11	9	2.1	52	43	27	1.9	−	−	−	−
	資源生物科学科	55	21	16	12	1.8	106	96	45	2.5	−	−	−	−
	応用生命科学科	80	32	21	16	2.3	156	139	68	2.4	−	−	−	−
	小計	170	70	48	37	2.1	314	278	140	2.3	−	−	−	−
合計		2,107	850	609	373	2.3	4,422	4,083	1,801	2.6	55	17	5	11.0

【注】(1)　推薦入試の受験者には，第１次選考での不合格者は含みません。
　　(2)　表中の志願倍率は「第１志望の志願者／試験種別の募集人員」で算出してあります。

令和２年度　名古屋大学入学試験　合格最高・最低点及び合格者の平均点一覧

学部・学科等			前期日程 満点	前期日程 合格最高点	前期日程 合格最低点	前期日程 合格者の平均点
文学部			2,100	1,645	1,384	1,462.52
教育学部			2,700	2,003	1,664	1,763.88
法学部			1,500	1,179	985	1,044.11
経済学部			2,400	1,809	1,469	1,568.59
情報学部	自然情報学科		2,000	1,572	1,260	1,379.50
情報学部	人間・社会情報学科		2,000	1,687	1,425	1,512.67
情報学部	コンピュータ科学科		2,200	1,689	1,436	1,519.87
理学部			2,350	1,947	1,432	1,569.12
医学部	医学科		2,550	2,273	1,822	1,969.65
医学部	保健学科	看護学専攻	2,400	1,552	1,253	1,338.29
医学部	保健学科	放射線技術科学専攻	2,400	1,630	1,369	1,450.20
医学部	保健学科	検査技術科学専攻	2,400	1,579	1,389	1,457.88
医学部	保健学科	理学療法学専攻	2,400	1,650	1,393	1,488.54
医学部	保健学科	作業療法学専攻	2,400	1,419	1,241	1,337.00
工学部	化学生命工学科		1,900	1,485	1,069	1,155.58
工学部	物理工学科		1,900	1,375	1,090	1,141.20
工学部	マテリアル工学科		1,900	1,342	1,084	1,140.00
工学部	電気電子情報工学科		1,900	1,450	1,146	1,221.43
工学部	機械・航空宇宙工学科		1,900	1,555	1,168	1,259.85
工学部	エネルギー理工学科		1,900	1,314	1,091	1,139.03
工学部	環境土木・建築学科		1,900	1,522	1,075	1,170.91
農学部	生物環境科学科		2,300	1,792	1,417	1,498.15
農学部	資源生物科学科		2,300	1,684	1,432	1,506.67
農学部	応用生命科学科		2,300	1,769	1,451	1,546.01

【注】(1)　工学部及び農学部の合格最低点は，高得点者選抜を除く合格者の最低点となっています。
(2)　合格発表時の得点に基づき作成しています。
(3)　医学部医学科の後期日程試験は試験成績の開示は行いません。

名 古 屋 大 学 の 概 要

1．沿　　革

●前身校期

1871（明治４）年	仮病院 仮医学校開設
1872（明治５）年	義病院設置
1873（明治６）年	仮病院 医学講習場設置
1875（明治８）年	愛知県病院設置
1876（明治９）年	公立医学講習場 公立医学所設置
1878（明治11）年	公立医学校設置
1881（明治14）年	愛知医学校設置
1901（明治34）年	愛知県立医学校設置
1903（明治36）年	愛知県立医学専門学校設置
1908（明治41）年	第八高等学校設置
1920（大正９）年	愛知医科大学設置
	名古屋高等商業学校設置
1931（昭和６）年	（官立移管）名古屋医科大学設置

●帝国大学（旧制大学）期

1939（昭和14）年	名古屋帝国大学創設（医学部と理工学部の２学部）
	名古屋帝国大学臨時附属医学専門部設置
1942（昭和17）年	名古屋帝国大学理工学部を理学部と工学部に分離
1943（昭和18）年	名古屋帝国大学航空医学研究所設置（1945年廃止）
1944（昭和19）年	名古屋工業経営専門学校設置（1946年廃止）
	名古屋経済専門学校設置
	名古屋帝国大学附属医学専門部設置
1945（昭和20）年	岡崎高等師範学校設置
1946（昭和21）年	名古屋帝国大学環境医学研究所設置
1947（昭和22）年	名古屋大学（旧制）と改称
1948（昭和23）年	名古屋大学文学部，法経学部を設置

●新制大学期

1949（昭和24）年	旧制名大，医専部，八高，名経専，岡崎高師を包括
	文，教育，法経，理，医，工の６ 学部及び環境医学研究所で新制名古屋大学として発足
	空電研究所，附属図書館，分校（教養部）を設置
1950（昭和25）年	法経学部を法学部と経済学部に分離
1951（昭和26）年	農学部設置
1953（昭和28）年	文学，教育学，法学，経済学，理学，工学の６ 研究科を設置（文学研究科2017年廃止）
1955（昭和30）年	医学，農学の２研究科を設置
1961（昭和36）年	プラズマ研究所設置（1989年廃止，核融合科学研究所へ発展）
1963（昭和38）年	教養部設置（1993年廃止）
1971（昭和46）年	大型計算機センター設置（2002年廃止）
1973（昭和48）年	水圏科学研究所設置
1977（昭和52）年	名古屋大学医療技術短期大学部併設（2001年廃止）
1990（平成２）年	空電研究所を太陽地球環境研究所に改組
1991（平成３）年	大学院国際開発研究科設置
1992（平成４）年	大学院人間情報学研究科設置（2003年廃止）
1993（平成５）年	情報文化学部設置（2017年廃止）
	水圏科学研究所を大気水圏科学研究所に改組（2001年廃止）
1995（平成７）年	大学院多元数理科学研究科設置
1997（平成９）年	大学院農学研究科を大学院生命農学研究科に改称
1998（平成10）年	大学院国際言語文化研究科設置（2017年廃止）
2000（平成12）年	大学院教育学研究科を大学院教育発達科学研究科に改称
2001（平成13）年	大学院環境学研究科設置
	地球水循環研究センター設置（2015年廃止）
2002（平成14）年	情報連携基盤センター設置（2009年廃止）
	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称
2003（平成15）年	大学院情報科学研究科設置（2017年廃止）

●国立大学法人期

2004（平成16）年	国立大学法人名古屋大学設立
	大学院法学研究科実務法曹養成専攻（法科大学院）設置
2006（平成18）年	エコトピア科学研究所設置
2009（平成21）年	情報基盤センター設置
2012（平成24）年	大学院創薬科学研究科設置
2015（平成27）年	太陽地球環境研究所等を宇宙地球環境研究所に改組
	エコトピア科学研究所を未来材料・システム研究所に改組
2017（平成29）年	情報学部設置
	大学院人文学研究科設置
	大学院情報学研究科設置
2018（平成30）年	「指定国立大学法人」に指定
2020（令和２）年	国立大学法人東海国立大学機構設立（岐阜大学と法人統合）

2．教育課程

本学における教育課程の体系は次表のとおりです。各学部では，この教育課程に基づき，４年一貫（医学部医学科は６年一貫）教育課程を編成し，それぞれ卒業までに修めなければならない科目及びその単位数を定めています。

また，文学部では２年次，理学部では１年次，医学部医学科では２年次，３年次及び４年次，工学部では１年次及び２年次，農学部では２年次及び３年次終了時に，それぞれの学部で定める単位数を修得していないと，次学年に進級できません。

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分</th><th>内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">専門系科目</td><td colspan="2">専門科目</td><td>各学部の学科，専攻の専門系科目のうちの最も中核的な科目（卒業論文又は卒業研究を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="2">関連専門科目</td><td>専門科目の周辺に位置する科目で，専門科目の教育効果をより高めるための科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門基礎科目</td><td>専門科目，関連専門科目などを理解するのに必要な，専門に直結した基礎教育科目</td></tr>
<tr><td rowspan="6">基礎科目</td><td colspan="2">全学基礎科目</td><td>初年次生を大学教育へ導入し，自立した学習能力を身につけるとともに，文・理に共通した基礎的学力や技能を養う科目</td></tr>
<tr><td></td><td>基礎セミナー</td><td>多面的な知的トレーニングによって，コモンベーシックとしての読み，書き，話す能力のかん養を図るとともに，真理探究の方法と面白さを学ぶ科目</td></tr>
<tr><td></td><td>言語文化</td><td>専門的学習のツールとして外国語の能力を高め，異文化理解を深めて，国際社会に相応しい教養を育む科目</td></tr>
<tr><td></td><td>健康・スポーツ科学</td><td>健康に関する自己管理能力，生涯スポーツの基礎となる技能の習得，スポーツを通したコミュニケーション能力やリーダーシップを育む科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">文系基礎科目</td><td>人文・社会科学系分野の学問体系を認識するとともに，自主的判断能力を培う科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系基礎科目</td><td>自然科学系分野の学問体系を認識するとともに，自主的判断能力を培う科目</td></tr>
<tr><td rowspan="4">教養科目</td><td colspan="2">文系教養科目</td><td>人文・社会科学系分野の諸現象について，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力を育むとともに，他の学問分野との関連性について理解する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">理系教養科目</td><td>自然科学系分野の諸現象について，それらの諸現象を学際的，総合的に分析，把握する能力を育むとともに，他の学問分野との関連性について理解する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">全学教養科目</td><td>専門分野を問わず，豊かな人間性を育み，総合的判断能力をかん養する科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">開放科目</td><td>学生の自主的で多様な学習意欲に応えるため，学部等が開講する専門系授業科目のうち，他学部の学生の受講が可能であり，かつ，有意義であると認めて全学に開放する科目</td></tr>
</table>

【注】(1)　全学基礎科目・言語文化の履修については，次の言語文化科目の中から英語を含む二つを選択する必要がありますので，あらかじめ考えておいてください。

英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語及び朝鮮・韓国語

(2)　英語を履修するに当たって，クラス分けのための「英語プレイスメント・テスト」を入学式前に入学者全員に対して行います。

この「英語プレイスメント・テスト」は，みなさんの「英語力」を客観的に判断して，「英語力」のレベルに応じてクラス分け（英語習熟度別クラス編成）をするためのテストです。あくまでもクラス分けのためのテストですから，その成績は学習指導に利用されるものであって，「英語」の成績には反映されません。

これら，【注】(1)，(2)についての詳細は，入学手続書類を参照してください。

3．学部・学科

学部・学科名及び１学年当たりの定員は次のとおりです。

なお，経済学部及び理学部の入学者選抜は，学科別ではなく学部全体として行います。各学科や各専攻等へは，下記に示す時期から志望により配属されます。ただし，志望者が当該学科や専攻等の定員を超える場合は，選考を行うことがあります。

学科・専攻等への配属時期について

文学部(分野・専門への配属)	２年次の前期	情報学部(系への配属)	３年次の前期
教育学部(コースへの配属)	２年次の後期	理学部(学科への配属)	２年次の前期
経済学部(学科への配属)	２年次の前期	工学部環境土木・建築学科（プログラムへの配属）	２年次の前期

◎ **文　学　部**

人　文　学　科　　125名

文芸言語学コース（言語学，日本語学，日本文学，英語学，英米文学，フランス語フランス文学，ドイツ語ドイツ文学，中国語中国文学），哲学倫理学コース（哲学，西洋古典学，中国哲学，インド哲学），歴史学・人類学コース（日本史学，東洋史学，西洋史学，美学美術史学，考古学，文化人類学），環境行動学コース（社会学，心理学，地理学）

◎ **教　育　学　部**

人間発達科学科　　65名

生涯教育開発コース　　心理社会行動コース
学校教育情報コース　　発達教育臨床コース
国際社会文化コース

◎ **法　学　部**

法律・政治学科　　150名

＊「法曹コース」の新設：2019年度以降の入学者を対象として，法曹養成のための「５年一貫教育」を実施する「法曹コース」を設置しました。入学後に所定の手続きをとってこのコースに登録し，必要な条件を満たせば，早期卒業制度を利用して３年間で法学部を卒業し，法科大学院の既修者コース（２年間）に進学することができます。

◎ **経　済　学　部**

経　済　学　科　　140名
経　営　学　科　　65名

◎ **情報学部**

学科	定員	学科	定員
自然情報学科 数理情報系，複雑システム系	38名	コンピュータ科学科 情報システム系，知能システム系	59名
人間・社会情報学科 社会情報系，心理・認知科学系	38名		

◎ **理学部**

学科	定員	学科	定員
数理学科	55名	生命理学科	50名
物理学科	90名	地球惑星科学科	25名
化学科	50名		

◎ **医学部**

学科	定員	学科	定員
医学科	107名		
保健学科			
看護学専攻	80名	理学療法学専攻	20名
放射線技術科学専攻	40名	作業療法学専攻	20名
検査技術科学専攻	40名		

◎ **工学部**

学科	定員	学科	定員
化学生命工学科	99名	エネルギー理工学科	40名
物理工学科	83名	環境土木・建築学科	80名
マテリアル工学科	110名	環境土木工学プログラム	JABEE認定の技術者教育プログラム
電気電子情報工学科	118名	建築学プログラム	
機械・航空宇宙工学科	150名		

◎ **農学部**

学科	定員
生物環境科学科	35名
資源生物科学科	55名
応用生命科学科	80名

4．大学院

学部を卒業した後，さらに専門分野について深く研究しようとする者は，選考を経て大学院に入学することができます。本学の大学院には，人文学・教育発達科学・法学・経済学・情報学・理学・医学系・工学・生命農学・国際開発・多元数理科学・環境学・創薬科学の各研究科が設けられています。

研究科		専攻
人文学研究科（1専攻）		人文学
教育発達科学研究科（2専攻）		教育科学，心理発達科学
法学研究科（2専攻）		総合法政，実務法曹養成（法科大学院）
経済学研究科（2専攻）		社会経済システム，産業経営システム
情報学研究科（6専攻）		数理情報学，複雑系科学，社会情報学，心理・認知科学，情報システム学，知能システム学
理学研究科（4専攻）		素粒子宇宙物理学，物質理学，生命理学，名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学
医学系研究科	修士課程（1専攻）	医科学
	前期課程（1専攻）	総合保健学
	医学博士課程（4専攻）	総合医学，名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学，名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学，名古屋大学・フライブルク大学国際連携総合医学
	後期課程（1専攻）	総合保健学
工学研究科（17専攻）		有機・高分子化学，応用物質化学，生命分子工学，応用物理学，物質科学，材料デザイン工学，物質プロセス工学，化学システム工学，電気工学，電子工学，情報・通信工学，機械システム工学，マイクロ・ナノ機械理工学，航空宇宙工学，エネルギー理工学，総合エネルギー工学，土木工学
生命農学研究科（6専攻）		森林･環境資源科学，植物生産科学，動物科学，応用生命科学，名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学，名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学
■国際開発研究科（1専攻）		◆国際開発協力
■多元数理科学研究科（1専攻）		◆多元数理科学
■環境学研究科（3専攻）		◆地球環境科学，◆都市環境学，◆社会環境学
■創薬科学研究科（1専攻）		◆基盤創薬学

【注】■…独立研究科　◆…独立専攻

5．教職課程

本学は，教員養成を目的としていませんが，教職に関する科目を履修し，所定の単位を取得した者は，履修した教科に関する科目に応じ，中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得することができます。免許状の教科は，次のとおりです。

国語・社会・数学・理科・農業・商業・英語・地理歴史・公民・情報

6．学生生活

(1) 修学費援助

① 高等教育の修学支援新制度

令和２年４月から，大学等における修学の支援に関する法律に基づく修学支援新制度が始まりました。名古屋大学は，修学支援新制度の対象機関に認定されています。

高等教育の修学支援新制度は，以下の２つの支援からなります。

・給付奨学金（原則返還が不要な奨学金）

・授業料等の減免（授業料と入学料の免除または減額）

本制度の申請を行う場合は，文部科学省及び日本学生支援機構の以下のページから制度の詳細を確認の上，新制度に該当する方は，在籍する学校又は卒業した学校を通じて予約採用手続きを行うか，入学時に手続きを行ってください。詳細は入学手続要領にて確認してください。

（文部科学省ホームページ）

https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm

（日本学生支援機構　奨学金ホームページ）

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html

（日本学生支援機構　進学資金シミュレーター）

https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html

② 入学料の免除及び徴収猶予

入学料について，学資負担者が，入学前１年以内に死亡または風水害等に被災するなど，特別な事情により入学料の納入が著しく困難と認められる場合は，選考の上，入学料の全額または一部が免除あるいは徴収猶予される制度があります。名古屋大学のホームページにも記載されていますが，詳細は入学手続要領にて確認してください。

照会先　学生支援課〔電話　052－789－2172〕

③ 奨学金

人物・学業ともに優れた学生であって，経済的理由により修学が困難と認められる場合には，日本学生支援機構をはじめ，地方公共団体，民間奨学事業団体等から奨学金が給与（給付）・貸与される制度があります。いずれも，選考の上，決定されます。

日本学生支援機構奨学金の詳細は，ホームページ（https://jasso.go.jp/）にて確認してください。募集日程等については，入学後まもなく，学内の掲示板および名古屋大学ホームページにてお知らせします。名古屋大学での照会先は以下のとおりです。

照会先　学生支援課〔電話　052－789－2175〕

それ以外の奨学金については，名古屋大学のホームページに募集中のものを掲載しています。応募は，入学した後になります。照会先は以下のとおりです。

照会先　学生支援課〔電話　052－789－2174〕

④　国の教育ローン（日本政策金融公庫）

本学の入学者や在学者は，保護者を通じて，日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を利用することができます。「国の教育ローン」は，教育のために必要な資金を融資する公的な制度で，入学金やアパートの敷金などの入学時の費用や，授業料や教科書代，アパートの家賃などの在学中の費用に幅広く使えます。

なお，申込みは合格発表前にもすることができます。

詳しくは,教育ローンコールセンター（ナビダイヤル0570－008656）にお問い合わせいただくか，以下のページにてご確認ください。

（日本政策金融公庫ホームページ）

https://www.jfc.go.jp/vn/finance/search/ippan.html

融　資　額	学生１人につき350万円以内
返　済　期　間	15年以内　（交通遺児家庭，母子家庭，父子家庭または世帯年収200万円（所得122万円）以内の方は18年以内）

(2) 学生の宿舎等

① **名古屋大学国際嚶鳴館（おうめいかん）**

『概　要』

ア　所在地等　〒466－0811　名古屋市昭和区高峯町165
　　　　　　　東山キャンパスから南へ約700m（徒歩：約10分，自転車：約５分）

イ　入居定員　291名
　　　　　　　男子：211人（うち，外国人留学生30人）
　　　　　　　女子： 80人（うち，外国人留学生30人）

ウ　入居期間　原則として１年（審査の上，延長可能）

エ　施設概要　居室は個室（13㎡）ですが，キッチン，リビング，洗濯室は共同利用です。

オ　設備概要　居室には，机，椅子，ベッド，ワードローブ，戸棚，ユニットバス・トイレ，エアコンが備え付けられています。

カ　経　　費　寄宿料　月額16,000円（共益費を含む）／光熱水料　実費

キ　申込資格　自宅（生計を一にする家族の住居）から通学に要する時間が片道２時間以上であること。

ク　審　　査　経済的状況により審査を行い，困窮度の高い者から許可します。
　　　　　　　例：年収（給与収入）が４人家族（両親，本人，私立高校在学の弟または妹）で700万円以下　等

ケ　入居案内　入居案内については，本学ホームページ「入学案内（大学案内・選抜要項・募集要項）URL：http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/guide/pamphlet/index.html」に掲載しております。

②　アパート・マンション等

一人暮らしの希望者には，名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）において，お部屋探しの予約会や相談会を実施しております。

大学付近の平均家賃は45,000～50,000円程度です。食事付きの物件等もありますのでご相談ください。

詳細は名大生協の「受験生・新入生応援サイト（http://www.nucoop.jp/fresh/index.html)」にて順次情報を掲載いたします。

※スケジュールは2020年12月時点での予定です。今後変更になる場合もございますので，上記「受験生・新入生応援サイト」にてご確認をお願いいたします。

合格前予約会

期　　間	受付時間	場　　所
2月23日(火)～2月24日(水)	11：00～16：00	南部食堂2階「彩」
2月27日(土)		

※試験当日（2月25日・26日）の開催については詳細が決定次第「受験生・新入生応援サイト」でご案内いたします。

・合格の際に必ず入居することを条件に合格前にお部屋を1部屋押さえることができる予約会です。

・手付金等の費用は不要です。(一部物件を除く)

・円滑に案内が行えるように来場予約をお願いしております。

お部屋探し相談会

期　　間	受付時間	場　　所
3月10日(水)	15：00～18：00	南部食堂2階「彩」
3月11日(木)	10：00～15：00	
3月12日(金)～3月15日(月)	11：00～15：00	

・お部屋探しに合わせて，新生活や入学準備に必要なものをトータルでご紹介いたします。

・来場が集中する期間となりますので原則として新入生サポートセンターの来場予約をお願いしております。

・3月16日以降は住まいの斡旋コーナーまでお問い合わせください。

(3) 保健等

① 定期健康診断及び健康相談

本学では，保健管理室（総合保健体育科学センター）において，毎年春に定期健康診断を行っています。また，心身共に健康であることが有意義な学生生活を送る上で欠かせないものであるので，心身両面にわたる健康に関して学生はいつでも気軽に相談できます。

② 学生教育研究災害傷害保険制度及び学研災付帯賠償責任保険制度

ア 学生教育研究災害傷害保険制度

正課中（授業中・研究活動中），学校行事中，学校施設内にいる間，課外活動中及び通学中に生じた不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合の被害救済措置としての保険制度です。

イ 学研災付帯賠償責任保険制度

正課中（授業中・研究活動中），学校行事中，課外活動中，インターンシップ，教育実習，医学部の実習，ボランティア活動及びその往復において他人にケガをさせたり，他人の財物を損壊したことにより，法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を補償する措置としての保険制度です。

【注】① 教育・経済・情報・理・工・農の各学部及び医学部医学科・医学部保健学科看護学専攻への入学者は，全員，前記ア及びイの両方の保険に加入するものとしています。

② 文･法の各学部及び医学部保健学科（看護学専攻は除く）への入学者は，全員前記アに加入し，イの保険への加入希望者は，入学後，それぞれの学部の教務学生関係の窓口で手続をすることとしています。

保険料は，下記のとおりで，教育・経済・情報・理・工・農の各学部及び医学部医学科・医学部保健学科看護学専攻は，前記イの保険料を含んでいます。

文・法の各学部［保険期間４年間］……………………………………………3,300円
教育・経済・情報・理・工・農の各学部［保険期間４年間］…………4,660円
医学部（医学科）［保険期間６年間］……………………………………………7,800円
医学部（保健学科看護学専攻は除く）［保険期間４年間］………………3,370円
医学部（保健学科看護学専攻）［保険期間４年間］…………………………5,370円

(4) オンライン授業環境等

キャンパス内にはパソコンの設置された端末室があり，WiFiネットワークサービスも提供されています（ただし，キャンパスが閉鎖された場合は，これらサービスも利用できません)。オンライン授業へ対応するため，PCを準備していただくことを推奨します（PCの推奨スペック等については，追ってお知らせします)。なお，在学生所有のPCにインストール可能なマイクロソフト社のOfficeも無償で提供される予定です。詳しくは大学のホームページ等での案内をご参照ください。

(5) 学生相談

本学には学生支援センターが設置されていて，学業，進路，対人関係，精神保健，将来，就職のことなど学生生活上の悩みや課題について，いつでも相談に応じています。

(6) 体育活動

およそ50の運動サークルが名古屋大学体育会に所属し，活発な課外活動を行っています。

(7) 文化活動

およそ60の文化サークルが名古屋大学文化サークル連盟を組織し,活発な課外活動を行っています。

(8) 学生会館

東山キャンパスには，学生課外活動の中心施設として学生会館があり，集会室，和室及び談話室などがあります。

(9) 学生食堂等

大学の構内には，食堂・カフェや日用品の売店等があります。

また，教科書の販売については名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）にて行っています。

新入生の教科書購入については「受験生・新入生応援サイト（https://www.nucoop.jp/fresh/index.html)」にて順次情報を掲載いたします。

名古屋大学消費生活協同組合の受験生向け情報提供・資料請求について

名古屋大学消費生活協同組合（名大生協）は，名古屋大学受験生・保護者向けに「住まい物件」,「入学準備」,「教科書・教材申込」などに関する情報や冊子を提供しております。

また，受験時・合格発表後に入学準備に関する説明会・相談会も計画しています。

情報の取得や資料請求は，以下のホームページから行うことができます。

※なお資料冊子の発送は１月中旬以降を予定しています。

名大生協の「名古屋大学生のための受験生・新入生応援サイト」は以下のURLまたはQRコードから

http://www.nucoop.jp/fresh/index.html

また，すぐに生協からの入学準備情報を受け取ることができる「名古屋大学生協新入生サポートセンターLINE公式アカウント」への友だち登録もお願いいたします。
（お部屋探し相談会などの情報も発信します）
登録はこちらから

https://www.nucoop.jp/fresh/start/start_346.html

名大生協の受験生向け資料に関するお問い合わせ先

名古屋大学消費生活協同組合・本部　Tel：052－781－1111（平日10：00～17：00）

7．学生数

令和２年５月１日現在

学部	学生数 男子	女子	計	
文学部	230	346	576	〔13〕
教育学部	122	196	318	〔11〕
法学部	426	264	690	〔29〕
経済学部	672	283	955	〔29〕
情報学部	471	108	579	〔5〕
情報文化学部	18	1	19	〔1〕
理学部	966	257	1,223	〔54〕
医学部	732	784	1,516	〔8〕
工学部	2,641	319	2,960	〔74〕
農学部	423	326	749	〔27〕
計	6,701	2,884	9,585	〔251〕

研究科	学生数 男子	女子	計	
人文学研究科	149	290	439	〔230〕
教育発達科学研究科	95	145	240	〔52〕
法学研究科	121	110	231	〔105〕
経済学研究科	98	61	159	〔94〕
情報学研究科	351	93	444	〔116〕
理学研究科	438	124	562	〔46〕
医学系研究科	597	344	941	〔124〕
工学研究科	1,574	175	1,749	〔286〕
生命農学研究科	251	212	463	〔68〕
国際開発研究科	93	124	217	〔139〕
多元数理科学研究科	155	11	166	〔23〕
国際言語文化研究科	7	12	19	〔9〕
環境学研究科	277	162	439	〔156〕
情報科学研究科	18	2	20	〔3〕
創薬科学研究科	66	31	97	〔6〕
人間情報学研究科		1	1	〔0〕
計	4,290	1,897	6,187	〔1,457〕

【注】(1) 〔　〕内は外国人留学生を内数で示す。
【注】(2) 情報文化学部は，平成29年度以後，学生の募集を停止。（３年次編入学は，平成31年度以後，学生の募集を停止）
【注】(3) 文学・国際言語文化・情報科学研究科は，平成29年度以後，学生の募集を停止。
【注】(4) 人間情報学研究科は，平成15年度以後，学生の募集を停止。

大学案内及び学部紹介冊子の請求方法

(1) 本学のホームページから請求する場合

本学のホームページから『モバっちょ』を利用して大学案内及び学部紹介冊子が請求できます。(名古屋大学ホームページ(http://www.nagoya-u.ac.jp/)トップページの「入学案内」→「学部募集要項／大学案内など」→「募集要項・大学案内等の入手方法」)

※インターネット出願の導入により，一般選抜学生募集要項及び大学入学共通テストを課す学校推薦型選抜学生募集要項について，冊子体での配付は行いません。

(2)『モバっちょ』から請求する場合

携帯電話，スマートフォン，パソコンから請求できます。

https://djc-mb.jp/nagoya-u9/

【料金（送料）の支払い方法】

① 請求時払い

携帯払い，スマホ払い，クレジットカード払いができます。(別途手数料が50円必要です。)

※携帯電話・スマホの機種，携帯電話会社との契約状況によって，通話料金と一緒にお支払いできない場合がございます。その場合，コンビニ後払いを選択してください。

② コンビニ後払い

資料到着後，コンビニでお支払いください。(別途手数料が126円必要です。)

■上記請求方法についての問合せ先

大学情報センター株式会社　モバっちょカスタマーセンター

TEL. 050－3540－5005（平日10：00～18：00）

名古屋大学東山地区配置図

●地下鉄　名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅下車（１番出口）　徒歩約10分
「砂田橋」駅下車（１番出口）　徒歩約10分

●ＪＲ　中央本線
●名鉄　瀬戸線
●地下鉄　名城線
「大曽根」駅から　徒歩約20分
市バス砂田橋行（名駅15）「大幸三丁目」下車すぐ
ガイドウェイバス・ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅下車　徒歩約7分

名古屋大学各試験場へのアクセス

至岐阜
至犬山
至小牧・犬山
上小田井
上飯田
大幸地区試験場
（医学部保健学科のみ）
「ナゴヤドーム前矢田」駅
「砂田橋」駅下車10分
至多治見
至瀬戸
平安通
ナゴヤドーム前矢田
黒川
大曽根
砂田橋
茶屋ヶ坂
市役所
自由ヶ丘
丸の内
久屋大通
伏見
栄
千種
今池
池下
覚王山
本山
東山公園
至高畑
名古屋
至藤が丘
名古屋大学
鶴舞地区試験場
（医学部医学科 後期日程）
「鶴舞」駅下車8分
上前津
鶴舞
御器所
八事
至赤池・豊田
東山地区試験場
「名古屋大学」駅下車すぐ
桜山
金山
新瑞橋
徳重
名古屋港
至中部国際空港
至豊橋

東山キャンパス

■地下鉄東山線「名古屋」駅から藤が丘行きに乗車し,「本山」駅で地下鉄名城線（右回り）に乗り換え,「名古屋大学」駅まで所要時間は約30分